

山梨県笛吹市

金地蔵遺跡（3次）

— 社会福祉法人博愛保育園による保育園建設事業に伴う発掘調査報告書 —

2014

社会福祉法人博愛保育園
笛吹市教育委員会
昭和測量株式会社

序

笛吹市は、甲府盆地東縁に位置し、御坂山地に沿うように、积迦堂遺跡、桂野遺跡、三光遺跡、銚子原遺跡、一の沢遺跡などの縄文時代中期の拠点集落が認められており、なかでも积迦堂、一の沢の両遺跡から出土した土器群が国の重要文化財に指定されるなど豊かな縄文文化が花開いた地域であります。

また、前方後円墳として知られる岡・銚子塚古墳や5世紀代の東日本最大の方墳である竜塚など、大型古墳が築かれていた地域もあります。これら大型古墳を築きあげるに至った生産力を背景に笛吹市エリアにはその後、国府が置かれ、国分寺、国分尼寺が建立されました。そして、武田信虎が甲府の躑躅ヶ崎に館を移すまでの間、笛吹市は甲府盆地の政治、文化の中心地であり続けました。

金地蔵遺跡は、浅川扇状地に営まれた集落遺跡で、これまでに2度の発掘調査が行われており、縄文時代、古墳時代、平安時代、中世など幅広い遺構群が記録保存されています。そのなかでも、古墳時代から平安時代にかけての遺構、遺物は八代郡家の成立や存続を探るうえで重要な資料になるとの評価をいただいております。今後、金地蔵遺跡周辺の調査事例の増加と新たな遺構、遺物の分析が進むことで、古代甲斐国の歴史が明らかになっていくのではないかと期待しております。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご理解ご協力いただきました社会福祉法人博愛保育園様をはじめとする関係者の皆様、発掘調査を担当いただきました昭和測量株式会社に感謝申し上げ、本書の序文といたします。

平成26年3月31日

笛吹市教育委員会
教育長 坂本誠二郎

例　言

1. 本報告書は、笛吹市八代町北地内埋蔵文化財包蔵地「金地蔵遺跡（八代－65）」の第3次発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査業務および報告書作成業務は、社会福祉法人博愛保育園と笛吹市教育委員会および昭和測量株式会社の間で三者協定を締結し、笛吹市教育委員会の指導・監督・助言のもと、昭和測量株式会社が行った。
3. 本遺跡にかかる費用は、すべて社会福祉法人博愛保育園が負担した。
4. 発掘調査は、平成25年6月17日～7月3日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は、平成25年7月4日～平成26年3月31日まで実施した。
5. 本報告書の編集と第1章・第3章・第4章の執筆は泉英樹（昭和測量株式会社）が行い、第2章の執筆と出土遺物の写真撮影は小谷亮二（昭和測量株式会社）が行った。
6. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の「石和」(1:25000)、国土地理院の基盤地図情報25000(地図画像)『笛吹市』を使用して作成した。
7. 遺跡におけるX、Y座標は世界測地系座標を使用している。
8. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々に御指導と御協力を賜った。感謝の意を表したい。
(順不同、敬称略)
社会福祉法人博愛保育園・笛吹市教育委員会・坂本美夫
9. 本調査における図面・写真・遺物はすべて笛吹市教育委員会で保管している。

凡　例

本書における遺構・遺物の表示は以下の通りである。

1. 遺構・遺物の挿図の縮尺は、各図にバースケールで表示した。
2. 写真図版の縮尺は任意である。
3. 遺物の挿図番号は、報告書を通して連番で付した。遺物分布図・観察表および本文中の番号はそれぞれ対応している。
4. 遺構及び遺物の色調は、『新版標準土色帖2010』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づいた。
5. 断面図中の数値は、海拔高度(T.P.)を示す。
6. 調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
S I : 壓穴建物跡 S D : 構状遺構 S K : 土坑 S P : ピット
7. 遺物実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

 須恵器  黒色処理

目 次

序文

例言

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 調査の概要	3
第1節 地理的環境と立地	3
第2節 周辺遺跡と歴史的環境	3
第3節 調査の方法と基本層序	8
第3章 検出された遺構と遺物	9
第1節 壁穴建物跡 (S I)	9
第2節 土坑・ピット (S K・S P)	10
第3節 溝状遺構 (S D)	12
第4章 まとめ	14

引用・参考文献

報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡の位置	2	第11図 ピット(1)	22
第2図 周辺の遺跡分布図	4	第12図 ピット(2)	23
第3図 金地蔵遺跡(3次)グリッド およびトレンチ設定図	6・7	第13図 S D 1・2・3(1)	24
第4図 基本層序	8	第14図 S D 1・2・3(2)	25
第5図 S I 1	16	第15図 S D 4・5	26
第6図 S I 1 カマド	17	第16図 S D 6	27
第7図 S I 1 据方	18	第17図 S I 1出土遺物(1)	28
第8図 S I 2・S D 7	19	第18図 S I 1出土遺物(2)	29
第9図 S I 2カマド	20	第19図 S I 2出土遺物	30
第10図 土坑	21	第20図 S D 1・2・4・6, 遺構外出土遺物	31

表目次

第1表 周辺の遺跡	5	第3表 遺物観察表(2)	33
第2表 遺物観察表(1)	32	第4表 遺物観察表(3)	34

写真図版目次

- | | | | |
|------|---|-------|--|
| 図版 1 | 1. 調査区全景（南西から）
2. 調査区全景（南から） | 図版 9 | 32. S P 17 セクション（南西から）
33. S K 1 セクション（北西から）
34. S K 2・3 セクション（南東から）
35. S K 2・3 完掘（南東から）
36. S K 4 セクション（南東から）
37. S D 1 セクション（南西から）
上) 北側 下) 南側
38. S D 1・2・3 完掘（北東から）
39. S D 2・3 遺物出土状況
左) (北東から) 中) (南西から)
右) (南西から・近影) |
| 図版 2 | 3. トレンチ 1・2 (南から)
4. トレンチ 1・2 (北西から)
5. トレンチ 3・4 (北西から) | 図版 10 | 40. S D 4 セクション (北西から)
41. S D 4 完掘 (北西から)
42. S D 5 セクション (南西から)
43. S D 5 完掘 (南西から)
44. S D 6 完掘 (西から)
45. S D 6 セクション (南西から)
左) 東端部 右) 中央部
46. 作業風景 |
| 図版 3 | 6. トレンチ 1・2 (北東から)
7. トレンチ 3・4 (北西から) | 図版 11 | 図版 12 S I 1 出土遺物 (1)
図版 13 S I 1 出土遺物 (2)
図版 14 S I 2 出土遺物
図版 15 S D 1・2・4・6, 遺構外出土遺物 |
| 図版 4 | 8. S I I 東西セクション (南西から)
9. S I I 南北セクション (北西から)
10. S I I 第3層遺物出土状況
(遺物番号 20) (北西から) | | |
| 図版 5 | 11. S I I 床面遺物出土状況
(遺物番号 22) (南西から)
12. S I I 床面検出状況 (南東から) | | |
| 図版 6 | 13. S I I カマド (南西から)
14. S I I カマド内遺物出土状況
(南西から)
15. S I I カマド前面
袖構築材検出状況 (南西から)
16. S I I カマド断割 (南西から)
17. S I I 完掘 (南西から) | | |
| 図版 7 | 18. S I 2 セクション (南東から)
19. S I 2 カマド検出状況 (北西から)
20. S I 2 カマドセクション (北東から) | | |
| 図版 8 | 21. S I 2 内遺物出土状況 (北西から)
22. S I 2 カマド完掘 (北西から)
23. S I 2 完掘 (南から) | | |
| | 24. S P 1 セクション (南西から)
25. S P 4 セクション (南西から)
26. S P 4 完掘 (南西から)
27. S P 5 セクション (東から)
28. S P 6 セクション (北東から)
29. S P 7 セクション (南東から)
30. S P 10・11 セクション (北から)
31. S P 16 セクション (南から) | | |

第1章 調査経過

第1節 調査に至る経緯

社会福祉法人博愛保育園による保育園建設事業に伴い、平成25年4月26日に笛吹市教育委員会が試掘調査を実施した。その結果、古墳・平安の竪穴建物・溝などが確認され、建物の基礎工事で破壊される恐れのある箇所について本調査を行うこととなった。

本調査に際しては、社会福祉法人博愛保育園が昭和測量株式会社との間に埋蔵文化財発掘調査業務の委託契約を交わし、博愛保育園、笛吹市教育委員会、昭和測量株式会社の三者間で協定書を締結した。昭和測量は、平成25年5月17日に山梨県教育委員会へ文化財保護法第92条第1項に基づく届け出を行い、平成25年6月17日より笛吹市教育委員会の指導監督の下、調査を行った。発掘調査は7月3日までを行い、埋蔵物発見届を7月5日付で笛吹警察署に提出した。

【調査体制】

調査担当者 泉 英樹・小谷亮二（昭和測量株式会社文化財調査課）

発掘調査および整理作業参加者（順不同） 大森透江・小澤美幸・齊藤里美・田中孝雄・長塚浩美

第2節 調査の経過

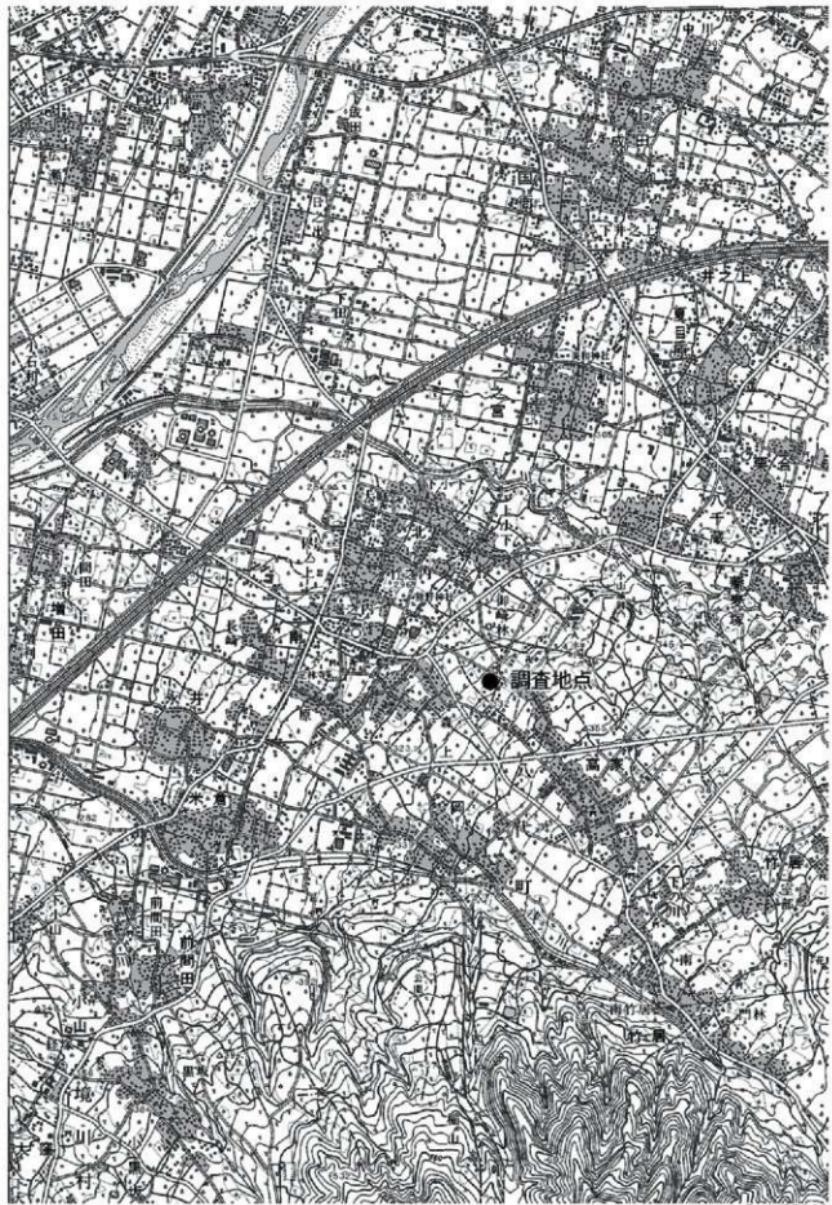
発掘調査は平成25年6月17日から7月3日まで実施した。調査は試掘調査の際に掘削されたトレンチ4本を継続調査する形で行った。

6月17日に試掘調査の際に生じた排土の移動や追加の掘削を重機によって行い、翌日より人力による掘削を開始した。遺構や土層、遺物の出土位置の記録作業を写真撮影、実測、トータルステーションを用いた測量等を適宜行いながら作業を進め、7月3日に高所作業車による遺跡全景写真を撮影し、測量を行って現場作業を終了とした。

統いて整理作業を行った。9月2日から、出土遺物の水洗を開始し、順次注記・接合を行って、10月8日からは実測作業を開始した。また、必要なものに関しては拓本の採取を行った。10月28日からは遺物実測図のデジタルトレースを開始した。遺構図については、10月7日からトータルステーションや写真測量データの図化作業を開始し、11月1日から手実測図面のデジタルトレースを行った。遺物実測図と遺構図のトレース作業終了後、12月2日からadobe社Illustratorを使用して報告書挿図の作成・編集および遺物観察表の作成を行った。

遺物写真の撮影は、平成26年1月16日から22日まで行った。統いて遺物写真・遺構写真をadobe社Photoshop上で編集し、Illustratorを使用して写真図版のレイアウトを行った。

報告書の版下作成には、adobe社ソフトinDesignを使用した。1月16日から挿図・写真図版や表をinDesignにレイアウトした。その後、本文の原稿執筆を開始し、挿図や写真図版の修正を加えつつ、2月14日までに原稿の執筆を終了した。本報告書は平成26年3月31日に刊行された。



第1図 遺跡の位置

S=1/25000

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境と立地

金地藏遺跡は山梨県笛吹市八代町北に所在する。甲府盆地の南東部、御坂山地の北麓に位置し、北西に流れる笛吹川に向かって金川、天川、浅川、境川などが御坂山地から注ぎ込み、これらの河川により扇状地が形成されている。調査地は浅川によって形成された扇状地上に位置する。浅川は、御坂山地鳥坂峰周辺に源流をもつ全長約12kmの河川で、浅川扇状地は甲府盆地に広がる扇状地群の中でも最も発達したものである。

調査地の周囲は、桃・ブドウ畠として利用されている。標高は322～323mを測る。

第2節 周辺遺跡と歴史的環境

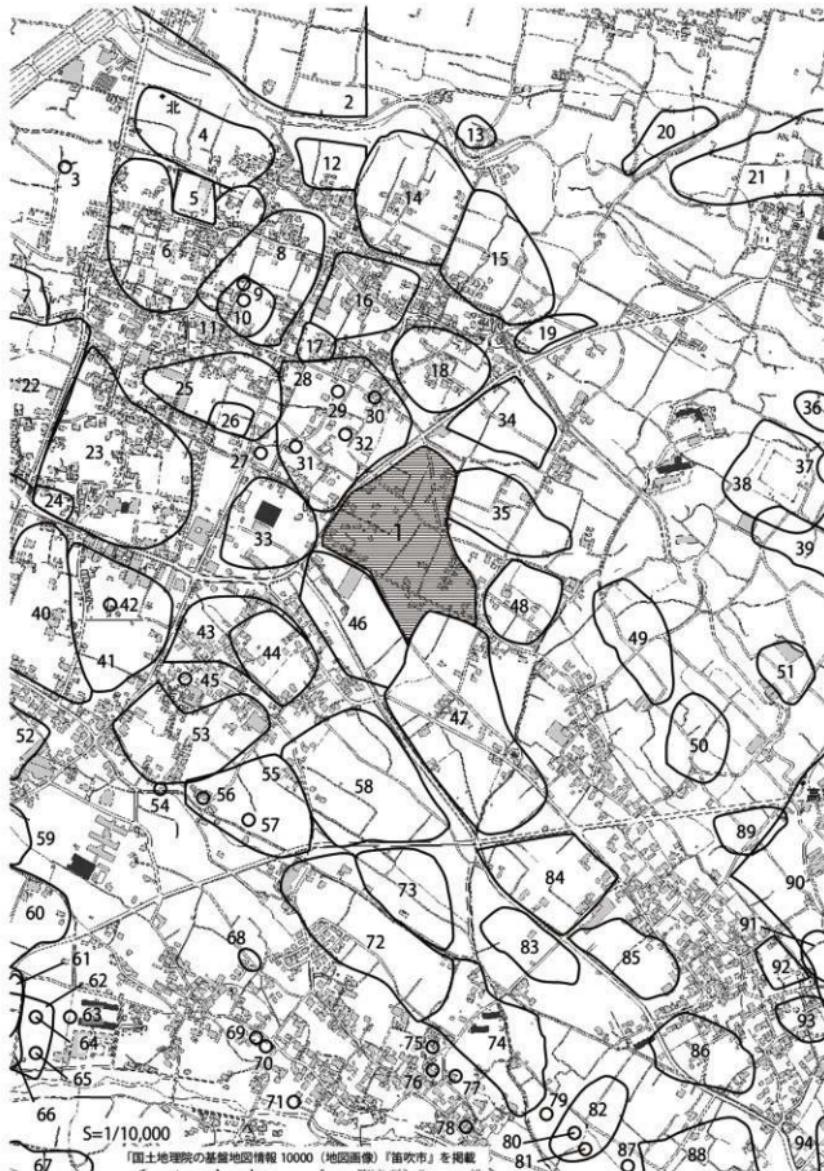
調査地の位置する浅川扇状地上にはほぼ全面といってよいほど縄文時代から近世にかけて多くの遺跡が所在している。遺跡の立地の傾向として、古墳は扇状地扇頂から扇央部に向かい帯状に分布している、その周辺には弥生時代以降の低湿地性遺跡や集落が点在している。以下、今回の調査地周辺の遺跡を紹介する。

縄文時代では、堀ノ内遺跡(23)が浅川扇状地の扇央部標高300mに所在する。縄文時代中期後葉の埋葬1基が検出されており、遺物は縄文時代中期末から後期前葉の土器・石器が出土している。

弥生時代の遺跡は、縮製斗遺跡(20)や保ノ下遺跡(22)がある。保ノ下遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されている。

古墳時代の遺跡は墳墓が集中して所在している。孤塚古墳(3)は帆立貝式古墳で5世紀後半に築造された。なお、古墳の近くに甲斐と駿河を結ぶ古道の1つである若彦路が通っている。团栗塚古墳(29)は当地域の初現期の古墳の1つである。明治の道路工事により前方部は削平され後円部と思われる墳丘が残る。調査は行われず上記の工事の際、竪穴式石室と組合せ式石棺が並列して発見された。内部には朱が塗られていたと伝えられる。副葬品は竪穴式石室から直刀・鉄鎌・土師器が、組合せ式石棺からは銅鏡(乳文鏡)・玉類・直刀の出土が当時の資料に記載されている。出土遺物から5世紀後半代の築造と思われる。真根子塚古墳(31)は墳丘は削平され周溝が検出された。直径約12mの円墳で出土遺物から5世紀後半の築造と思われる。地蔵塚古墳(45)は八代町地域においては最大規模の横穴石室墳である。開口していたため副葬品は全く知られていない。主体部構造が類似している御坂町姥塚古墳や甲府市加牟那塚古墳の年代などから6世紀末から7世紀初頭に築造されたと考えられる。

奈良・平安時代の遺跡は、八王子遺跡(33)で古墳時代から平安時代の竪穴建物跡、平安時代の掘立柱建物跡、溝、土坑が確認されている。遺物は古墳時代から平安時代にかけての土師器・須恵器が大量に出土した。また前述した堀之内遺跡(23)でも古墳時代後期から平安時代の竪穴建物跡などが確認されている。これらの遺構は、あまり広くない範囲の中で重複しており古墳時代後期から平安時代にかけての長期にわたり居住地として利用されていたと推測される。金地藏遺跡の1・2次調査でも同様な状況が報告されており、古墳時代後期以降、本遺跡周辺で広がりを見せた集落が奈良・平安時代を通じて存続していた様子がみてとれる。本遺跡が位置する八代町北、八代町南地区は、10世紀前半に編纂された『和名類聚抄』(以下『和名抄』)の八代郡の5郷のうちの八代・長江郷にあたると思われる。

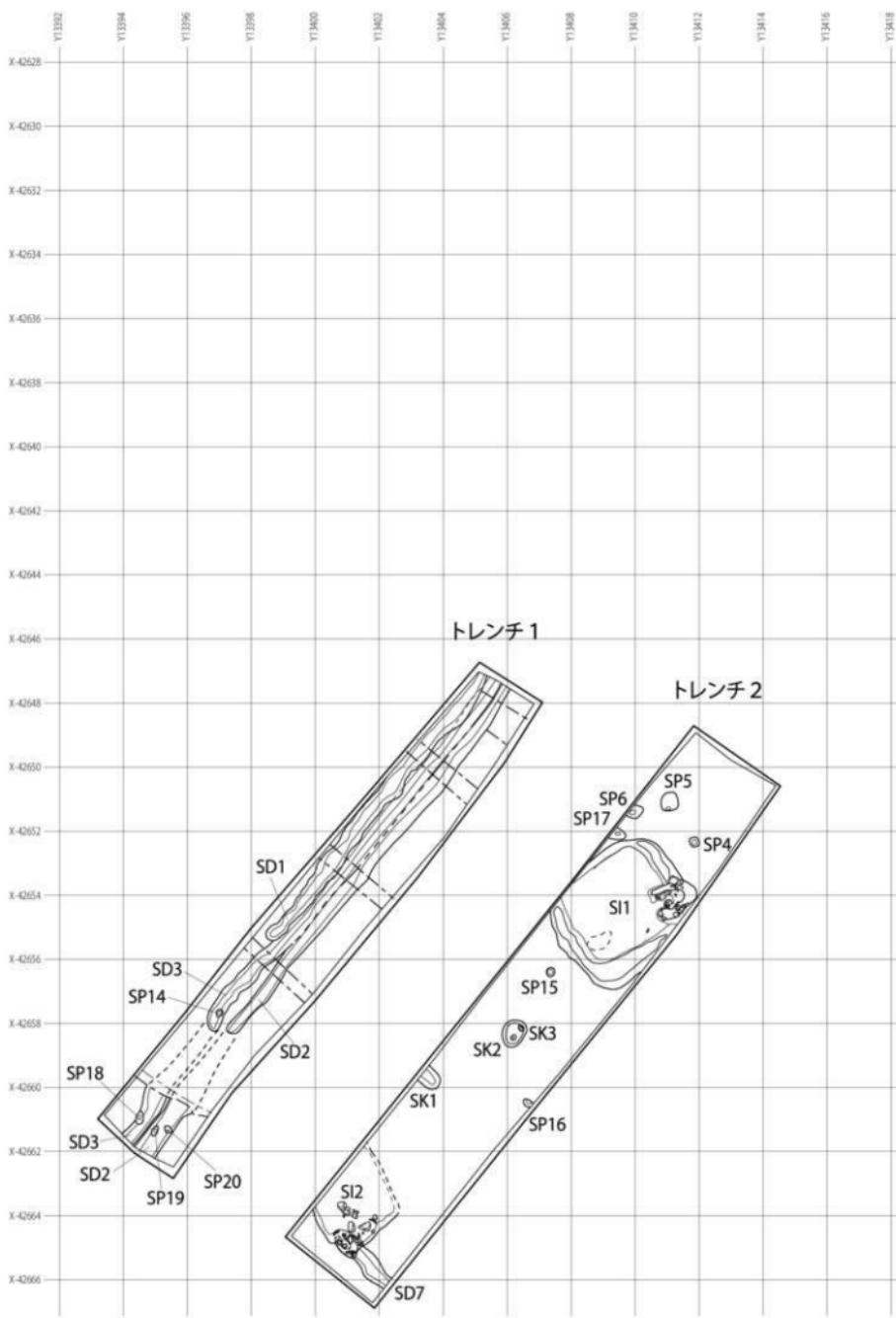


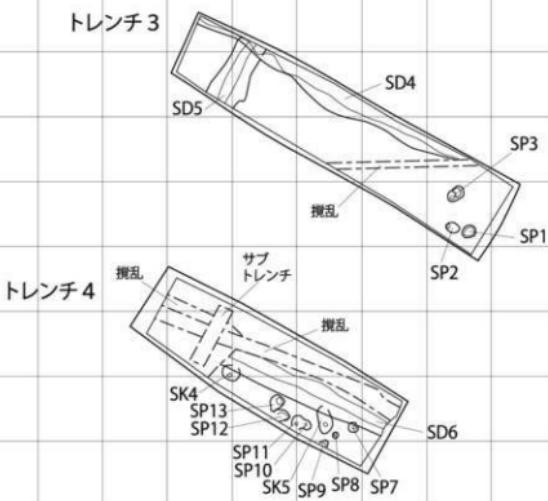
第2図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡

遺跡番号	遺跡名	種別	時代	遺跡番号	遺跡名	種別	時代
1	金地蔵道跡	散布地	古墳 / 奈良 / 平安 / 中世	48	御崎林道跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安 / 中世 / 近世
2	北条里制道構	条里	奈良 / 平安	49	高家・御崎遺跡	散布地	礪文 (前・中) / 古墳 / 平安 / 近世
3	狐塚古墳	古墳	古墳 (中)	50	塚田遺跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安 / 近世
4	和泉遺跡	散布地	古墳 / 奈良 / 平安 / 近世	51	楓原道跡	散布地	奈良 / 平安 / 中世
5	武田信守館跡	城館跡	中世	52	向原遺跡	散布地	古墳 / 平安
6	大庭遺跡	散布地	古墳 / 平安 / 中世	53	森ノ上南遺跡	散布地	古墳 / 奈良 / 平安 / 近世
7	神田遺跡	散布地	奈良 / 平安	54	山神塚古墳	古墳	古墳
8	奴白道跡	散布地	古墳 / 奈良 / 平安 / 近世	55	山ノ神道跡	集落跡	礪文 (中) / 奈良 / 平安 / 中世
9	能成寺塚古墳	古墳	古墳	56	見塚古墳	古墳	古墳
10	信守塚古墳	古墳	古墳	57	猿子塚古墳	古墳	古墳
11	能成寺跡	寺社跡	中世	58	池川遺跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安 / 中世 / 近世
12	下小下道跡	散布地	礪文 (中) / 奈良 / 平安 / 近世	59	下原遺跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安 / 近世
13	駒毛道跡	散布地	礪文 (中) / 近世	60	天神原道跡	散布地	古墳 / 平安 / 近世
14	芝草遺跡	散布地	平安	61	土井原遺跡	散布地	奈良 / 平安
15	大橋遺跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安 / 近世	62	米食氏館跡	城館跡	中世
16	上小下道跡	散布地	古墳 / 平安	63	石塚古墳	古墳	古墳 (後)
17	姫ノ屋敷跡	城館跡	中世	64	無名古墳	古墳	古墳
18	久保A道跡	散布地	古墳 / 奈良 / 中世	65	無名古墳	古墳	古墳
19	川後塚道跡	散布地	平安	66	米倉B条里制道構	条里	奈良 / 平安
20	鏡熨斗道跡	散布地	牛生 / 古墳 / 奈良 / 平安 / 近世	67	夜長道跡	散布地	礪文 / 古墳 / 奈良 / 平安
21	宮ノ後道跡	散布地	礪文 / 古墳 / 奈良 / 平安	68	沢添道跡	散布地	平安 / 近世
22	陰ノ下道跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安 / 近世	69	鷲崎塚古墳	古墳	古墳
23	堀之内道跡	集落跡	礪文 (中・後) / 古墳 / 奈良 / 平安 / 中世 /	70	無名古墳	古墳	古墳
24	下新兵衛屋敷跡	城館跡	中世	71	無名古墳	古墳	古墳
25	竹之内道跡	散布地	古墳 / 奈良 / 平安 / 中世 / 近世	72	北削道跡	散布地	礪文 (中) / 古墳 / 平安 / 近世
26	飯田氏屋敷跡	城館跡	中世	73	南・村上遺跡	散布地	礪文 / 古墳 / 奈良 / 平安 / 中世
27	無名古墳	古墳	古墳	74	岡・村上遺跡	散布地	礪文 (中) / 古墳 / 平安 / 中世 / 近世
28	伊勢之宮道跡	散布地	古墳 / 奈良 / 平安 / 近世	75	無名古墳	古墳	古墳
29	酒樂塚古墳	古墳	古墳 (前)	76	無名古墳	古墳	古墳
30	無名古墳	古墳	古墳	77	無名古墳	古墳	古墳
31	真根子塚古墳	古墳	古墳 (前)	78	無名古墳	古墳	古墳
32	伊勢塚古墳	古墳	古墳	79	無名古墳	古墳	古墳
33	八王子道跡	集落跡	礪文 / 古墳 / 奈良 / 平安 / 近世	80	鷲崎塚第一号埴	古墳	古墳
34	久保B道跡	散布地	奈良 / 平安 / 近世	81	無名古墳	古墳	古墳
35	堀川道跡	集落跡	奈良 / 平安 / 中世	82	中原遺跡	散布地	礪文 (前・中) / 古墳 / 奈良 / 平安 / 近世
36	丸山遺跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安時代礪文 / 近世	83	浅見原遺跡	散布地	奈良 / 平安
37	東小山A道跡	散布地		84	久保道跡	散布地	礪文 (中) / 古墳 / 平安 / 近世
38	小山城跡	城館跡	中世	85	清水道跡	散布地	平安 / 近世
39	東小山C道跡	散布地	礪文 / 奈良 / 平安 / 中世 / 近世	86	田中畠道跡	散布地	礪文 / 平安 / 近世
40	原道跡	散布地	古墳 / 奈良 / 平安 / 中世	87	黒塚古墳	古墳	古墳
41	二子塚道跡	散布地	礪文 (中・後) / 古墳 / 奈良 / 平安 / 中世 /	88	梨木道跡	散布地	礪文 (前) / 平安 / 中世 / 近世
42	双子塚古墳	古墳	古墳	89	早稲田道跡	散布地	近世
43	森ノ上北道跡	散布地	平安 / 中世 / 近世時代古墳	90	高家里制道構	条里	奈良 / 平安
44	浪人屋敷跡	城館跡	古世	91	法花田道跡	散布地	古墳 / 近世
45	地城塚古墳	古墳	古墳 (後)	92	高家三郎屋敷跡	城館跡	中世
46	下土之木道跡	散布地	礪文 / 古墳 / 奈良 / 平安 / 近世	93	八反田A道跡	散布地	礪文 / 中世
47	子之神社遺跡 (子の神社)	散布地	礪文 / 古墳	94	前田道跡	散布地	礪文 / 古墳 / 平安 / 近世

中・近世になると、武田信守館跡 (5), 奴白屋敷跡 (17), 下新兵衛屋敷跡 (24), 飯田氏屋敷跡 (26), 小山城跡 (38)などの城跡や城館跡があり、戦国時代以前の守護武田氏の根据地の一つとなっていた時期もある。そのうち下新兵衛屋敷跡 (24)では、古墳時代から奈良・平安時代と思われる堅穴建物の他に、中世の土壙墓が検出された。土壙墓からは屈葬人骨と銅鏡が出土し、人骨は鑑定の結果中世後半の女性である事が判明した。その他の遺物は、古墳時代の土師器・須恵器・勾玉、奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器が出土している。





第3図 金地蔵遺跡（3次）グリッドおよびトレンチ設定図

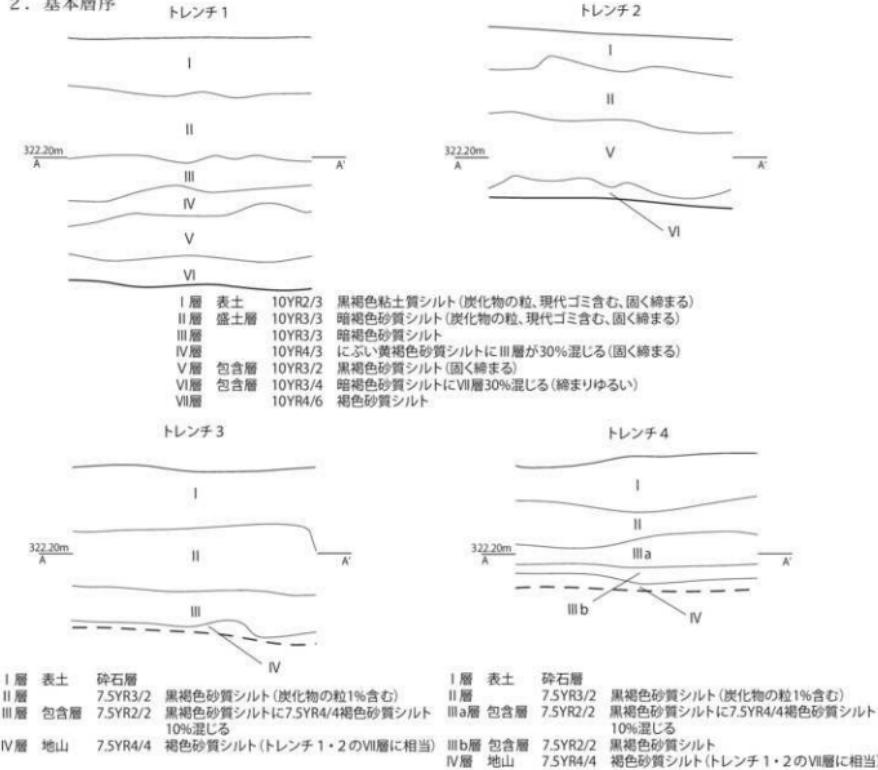
S=1/150

第3節 調査の方法と基本層序

1. 調査方法

調査は、試掘調査時に掘削されたトレンチを継続調査する形で行い、トレンチ番号も試掘調査時に用いられた番号（トレンチ1～4）を引きつづき使用することとした。掘削は、表土の除去にあたって部分的に重機を用いた以外は、すべて人力で行った。遺構番号については、トレンチに関係なく検出順に番号を付した。遺構の測量は、土層断面は手実測にて行い、平面図はトータルステーションと手実測、写真測量を併用した。遺物はトータルステーションを使用して位置を記録して取上げ、小破片については各遺構又はトレンチ毎の一括出土遺物として取り上げた。トータルステーションはNikon-Trimble FALDY-EN3を使用し、図化計算ソフトはCADIOS+を用いた。また、遺構・遺物の写真撮影には一眼レフデジタルカメラ（NikonD7000）を使用した。

2. 基本層序



第4図 基本層序

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 壁穴建物跡 (S I)

S I 1 (第5~7・17・18図)

トレンチ2で検出した。検出時の平面形が不整形であったことや埋土上面の焼土粒の分布状況、掘方の形状などから2軒の壁穴建物が重複していた可能性があるが、ここではカマドと床面が遺存していた建物をS I 1として記載する。

平面形は隅丸の方形を呈し、東西のコーナー部分が調査区外に伸びる。主軸はカマド軸基準でN-66°-Eを指す。規模は、長軸3.2m、短軸3.1m、深さは0.74mを測る。また棚状に遺存する部分を含めると長軸4.4m、短軸3.7mとなるが、これは先行する建物のものである可能性があり、その床面の深さは0.4~0.5mとなる。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とし、間層として炭化物の混じる黒褐色砂質シルトが中位と下位でそれぞれレンズ状に堆積する。

S I 1の床面は、明瞭な硬化面が検出されず地山を床面として利用したとみられるが、カマドの対となる部分の壁際に硬化した粘土範囲が確認でき、少なくとも出入口とみられる部分には粘土が貼られていたのではないかと推測する。

カマドは北東壁の東コーナー寄りに付設されている。天井部は崩れてしまっているが、袖およびカマド内部の遺存状況は良い。袖は地山を削り出して成形し、両袖の前面に角柱状の石を配置し、内部の構築材として石や土器片を褐灰色の細砂と粘土質シルトによって固め構築されている。袖の内側には焼土面が残り、カマド内には支柱石とそれを据え付けたとみられる浅いピットが確認できた。

その他、壁穴内に柱穴や壁際溝は検出されなかった。

出土遺物は土師器の壺・皿・蓋・甕、黑色土器、須恵器の壺・蓋・甕などで、主にカマド周辺とカマド内から出土している。

時期は、出土遺物から9世紀中頃に建てられ、10世紀までには埋没していた考える。

S I 2 (第8・9・19図)

トレンチ2で検出した。平面形は方形を呈し、建物の北西側は調査区外に伸びる。主軸はカマド軸基準でN-151°-Eを指す。北東側は動物によって掘られた穴によって搅乱されているが、搅乱部分が壁穴の壁面にほぼ沿っているとみられる。規模は、長軸2.55m、短軸2.4m、深さは0.35mを測る。埋土は上層に暗褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂質シルトを基調とした土がそれぞれ堆積する。

床面は明瞭な硬化面が検出されず地山を床面とした可能性が高い。

カマドは南東壁の南コーナー寄りに付設されている。天井部・袖部は崩れ、その構築材であった石や土器片が壁穴内に散らばって出土している状況が遺物の接合関係にみてとれる。カマド内には支柱石とそれを据え付けた浅いピットが確認され、焚出部には灰で埋まったピットが検出された。

壁穴内に壁際溝は確認されず、床下で浅いピットが1基検出されたが、柱痕などは確認できなかった。

切り合いで、S I 2がS D 7より新しい。

出土遺物は土師器の壺・皿・甕、須恵器の蓋などで、カマドとその周辺で出土している。

時期は、出土遺物から10世紀前半頃に建てられ、10世紀後半までには埋没したと考える。

第2節 土坑（S K）・ピット（S P）

土坑およびピットは合計で 25 基検出した。

S K 1（第 10 図）

トレーナー 2 で検出した。平面形は、調査区外に延びるため確定できないが、長楕円形を呈していると思われる。検出された長軸は 64cm、短軸は 58cm、検出面からの深さは 12cm を測る。出土遺物はなく、時期は不明である。

S K 2（第 10 図）

トレーナー 2 で検出した。平面形は円形を呈す。径は 69cm、深さ 31cm を測る。埋土は、黒褐色砂質シルトと暗褐色砂質シルトを基調とする。下層の中央部に柱痕とみられる暗褐色砂質シルトが堆積し、その両側と上層には人為的な痕跡を示すブロック土が見られる。S K 1 と比較的近い場所に位置するが建物に伴う遺構であるか判断できない。切り合いで S K 2 が S K 3 よりも新しい。出土遺物は土師器の壺、縄文土器があるが、いずれも小片である。時期は、出土遺物と埋土から、平安時代に帰属するものと推測する。

S K 3（第 10 図）

トレーナー 2 で検出した。S K 2 に切られるため平面形は不明である。長軸 60cm、深さ 26cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルトを基調とする。切り合いで S K 3 が S K 2 に先行する。出土遺物はなく、時期は不明である。

S K 4（第 10 図）

トレーナー 4 で検出した。平面形は円形で、径 55cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。切り合いで S K 4 が S D 6 に先行する。出土遺物は土師器の壺、内黒の黒色土器の壺があり、時期は平安時代に帰属するものと考える。

S K 5（第 10 図）

トレーナー 4 で検出した。平面形は不整形で、長軸 82cm、短軸 43cm、深さ 62cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。切り合いで S K 5 が S D 6 に先行する。出土遺物は土師器の壺の小片があり、時期は平安時代に帰属するものと推測する。

S P 1（第 11 図）

トレーナー 3 で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸 44cm、短軸 37cm、深さは 16cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は土師器の小片があるが、時期は不明である。

S P 2（第 11 図）

トレーナー 3 で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸 44cm、短軸 30cm、深さ 62cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトに褐色砂質シルトが混じる。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 3（第 11 図）

トレーナー 3 で検出した。平面形は楕円形を呈し長軸 57cm、短軸 37cm、深さ 36cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトに褐色砂質シルトのブロック土が含まれる。出土遺物はなく時期は不明である。

S P 4（第 11 図）

トレーナー 4 で検出した。平面形は楕円形を呈する。長軸 34cm、短軸 30cm、深さ 22cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトに褐色砂質シルトが混じる。S I 1 の北東側に隣接し、S I 1 をはさんで南北側の S P 15 と対称に位置にしている。出土遺物は土師器の壺の小片があり、時期は平安時代と推測する。

S P 5 (第 11 図)

トレンチ 2 で検出した。平面形は不規則な楕円形を呈している。長軸は 58cm、短軸は 54cm、深さは 53cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は土師器の壺と甕の小片がある。

S P 6 (第 11 図)

トレンチ 2 で検出した。調査区外に延びるため、平面形は不明である。検出した長軸は 48cm、短軸は 35cm、深さは 28cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 7 (第 11 図)

トレンチ 4 で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸は 32cm、短軸は 30cm、深さは 31cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。切り合いで S D 6 に先行する。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 8 (第 11 図)

トレンチ 4 で検出した。平面形は円形を呈し、長軸は 19cm、短軸は 18cm、深さは 25cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 9 (第 11 図)

トレンチ 4 で検出した。調査区外に延びるため、平面形は不明である。検出した長軸は 26cm、短軸は 18cm、深さは 25cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 10 (第 12 図)

トレンチ 4 で検出した。平面形は楕円形で、長軸は 33cm、短軸は 25cm、深さは 30cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。切り合いで S P 11 より新しい。出土遺物は土師器の甕の小片があるが、時期は不明である。

S P 11 (第 12 図)

トレンチ 4 で検出した。平面形は円形とみられ、長軸は 41cm、短軸は 30cm、深さは 46cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。切り合いで S P 10 に先行する。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 12 (第 12 図)

トレンチ 4 で検出した。調査区外に延びるため、平面形は不明である。検出した長軸は 50cm、短軸は 24cm、深さは 15cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は土師器の壺の小片があり、時期は平安時代と推測する。

S P 13 (第 12 図)

トレンチ 4 で検出した。平面形は不整形である。長軸は 52cm、短軸は 41cm、深さは 58m を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は土師器の甕の小片があるが、時期は不明である。

S P 14 (第 12 図)

トレンチ 1 で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸は 35cm、短軸は 20cm、深さは 12cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。S D 3 の底面で検出したが、切り合いで不明である。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 15 (第 12 図)

トレンチ 2 で検出した。平面形は楕円形を呈し長軸 30cm、短軸 27cm、深さ 14cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は土師器の甕の小片があり、時期は平安時代と推測する。

S P 16 (第 12 図)

トレチ 2 で検出した。平面形は長楕円形を呈し、長軸は 31cm、短軸は 22cm、深さは 15cm を測る。埋土は上層は黒褐色砂質シルト、下層は黒褐色砂質シルトに褐色砂質シルトが混じる。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 17 (第 12 図)

トレチ 2 で検出した。S I 1 に隣接する。調査区外に延びており、平面形は不明である。検出した長軸は 42cm、短軸は 39cm、深さは 68cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は土師器の壺の小片があり、時期は 9 世紀代と推測する。

S P 18 (第 12 図)

トレチ 1 で検出した。平面形は楕円形を呈している。長軸は 42cm、短軸は 23cm、深さは 23cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。S D 3 の底面で検出したが、切り合は不明である。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 19 (第 12 図)

トレチ 1 で検出した。平面形は楕円形を呈している。長軸は 34cm、短軸は 18cm、深さは 23cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。S D 2 の底面で検出したが、切り合は不明である。出土遺物はなく、時期は不明である。

S P 20 (第 12 図)

トレチ 1 で検出した。平面形は楕円形を呈している。長軸は 24cm、短軸は 18cm、深さは 21cm を測る。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。S D 2 の底面で検出したが、切り合は不明である。出土遺物はなく、時期は不明である。

第 3 節 溝状遺構 (S D)

S D 1 (第 13・14・20 図)

トレチ 1 で検出した。溝の主軸は N - 38° - E を指す。南西側は途中で途切れるが、北東側は調査区外に延びる。検出した長さは 10.62m、幅は 0.38 ~ 0.67m、深さは 0.16m を測る。埋土は上層が径 1 ~ 2 cm の小石を多く含む砂礫層で下層は黒褐色粘土質シルトである。S D 1・2・3 は、トレチ内で重なりあってほぼ同一方向に走っており、S D 1 が一番北西側に位置する。切り合では、S D 1 が一番新しく、S D 2・3・1 の順に南東側から北西側に掘り直しを行ったものと考えられる。出土遺物は土師器の壺、須恵器の高台壺、縄文時代の石鏃などで、土器はいずれも小破片であるが、S D 1~3 の時期は平安時代と推測する。埋土に比較的大粒の砂礫が含まれることから、水勢のある水路であったと推測する。

S D 2 (第 13・14・20 図)

トレチ 1 で検出した。溝の主軸は N - 39° - E を指す。北東および南西方向はそれぞれ調査区外に延びている。検出した長さは 18.34m、幅は 0.32 ~ 0.67m、深さは 0.31m を測る。埋土は上層に褐色砂、中層に砂礫層、下層に暗褐色砂質シルトが堆積する。切り合では S D 3 より古い。出土遺物は縄文土器、土師器の壺・壺、内黒の黒色土器（外面には墨書あり）、須恵器の高台壺・壺などだが、いずれも小破片である。時期は平安時代と推測する。

S D 3 (第 13・14 図)

トレチ 1 で検出した。溝の主軸は N - 39° - E を指している。S D 2 と同じく北東および南西方向は調査区外に延びる。検出した長さは 18.35m、幅は 0.43 ~ 0.72m、深さは 0.26m を測る。埋

土は暗褐色砂質シルトを基調とし、部分的に砂礫層が検出された。切り合いで S D 1 より古く、 S D 2 より新しい。出土遺物は土師器の壺、須恵器の壺などでいずれも小破片である。時期は平安時代と推測する。

S D 4 (第 15・20 図)

トレント 3 で検出した。溝の主軸は N - 61° - W を指す。北西および南東方向は調査区外に延びる。トレント 4 の S D 6 とほぼ併走する。検出した長さは 19.46m、幅は 0.80m、深さは 0.30m を測る。埋土は暗褐色砂質シルトを基調とする。切り合いで S D 5 より新しい。また溝の南肩には段があり、 S D 4 に切られた別の溝である可能性もある。出土遺物は縄文土器、土師器の壺・甕、須恵器の甕などで、古墳時代の遺物も混入するが時期は平安時代と推測する。

S D 5 (第 15 図)

トレント 3 で検出した。溝の主軸は N - 30° - E を指す。北東および南西方向は調査区外に延びる。検出した長さは 2.05m、幅は 0.84m、深さは 0.36m を測る。埋土は上層に暗褐色砂質シルト、下層に褐色砂質シルトが堆積する。切り合いで S D 4 より古い。出土遺物は少なく須恵器の甕の小破片があるが時期は不明である。

S D 6 (第 16・20 図)

トレント 4 で検出した。溝の主軸は N - 65° - W を指す。北西方向および溝の北肩は搅乱を受けている。南東方向は調査区外に延びる。検出した長さは、5.22m、幅は 0.93m、深さは 0.43m を測る。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は少なく縄文土器、土師器の壺などである。時期は、出土遺物とトレント 3 の S D 4 とほぼ併走することなどから平安時代と推測する。

S D 7 (第 8 図)

トレント 2 で検出した。溝の主軸は N - 40° - W を指す。北西方向は SI2 に切られ、南東方向は調査区外に延びる。検出した長さは 1.36m、幅は 0.43 ~ 0.63m、深さは 0.15m を測る。埋土は褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はなく、時期は不明である。

第4章　まとめ

1. 出土遺物について（第17～20図）

今回の調査では、縄文時代・古墳時代・平安時代の遺物が出土している。

縄文時代の遺物は、縄文土器がSD4・6などからわずかに出土した（遺物番号61・62・67）。曾利V式に比定されるものと思われる。またSD1からは完形の石鎚が出土している（同54）。四基無茎鎚で、石材は黒曜石である。いずれも混入遺物と考えられ、縄文時代の遺構は検出できなかった。

古墳時代の遺物は、各トレンチの溝状遺構から数点出土している。SD1～3では、古墳時代の土器の小破片が散在して出土しており、溝の開削時期が古墳時代にさかのぼる可能性もあるが、同時に放射状暗文を施した甲斐型土器の壺や玉縁状口縁の壺なども出土しているため、やはり混入遺物と考えた。

平安時代の遺物は竪穴建物SI1・2を中心に比較的まとまった量が出土している。

SI1からは甲斐型土器の壺・皿・蓋・甕などが出土した。壺は体部外面下半をヘラケズリし、内面に放射状暗文を施したものが多く（同1～13）、外底面に墨書きをしたものもみられた（同1～3）。皿は体部下半を回転ヘラケズリし、内面には同心円状の暗文が施されている（同20～22）。蓋は2点出土しており、内面に同心円状暗文が施される（同25・26）。甕（同27～33）は外面に縦位のハケ調整、内面は横位のハケ調整を施し、口縁部がやや肥厚するものもみられる（同30）。以上の特徴は、『山梨県史資料編2』によればIV期（9世紀前半）からV期（9世紀後半）の時期に該当するものと考えられる。特に皿は、IV期では「底部から体部下半に回転ヘラ削りが施され～内面に放射状暗文を施すものが多い」とあり、V期になると「底部に手持ちヘラ削りが施されるものが登場し～内面の暗文は放射状暗文が消え、同心円状暗文が主体となる。」とするが、SI1出土の皿には、放射状暗文を施されたものがない代わりに手持ちヘラケズリを施したものもなく、IV期からV期の過渡期（9世紀中頃か）に位置付けられる遺物と考えた。他に外面にヘラミガキを施した内黒の黒色土器なども出土している（同24）。

SI2からは甲斐型土器の壺・皿・甕などが出土し、高台付の内黒の黒色土器（同46）も出土している。壺・皿（同37～45）は、口縁端部が玉縁状を呈する。皿（同40）の底部は手持ちヘラケズリが施されるが、壺の中には体部下半のヘラケズリが観察できないものもある（同41～45）。甕（同47～50）は、外面に縦位、内面に横位のハケ調整を施し、口縁部が肥厚した厚口口縁のものがある（同48）。これらの点から、SI2の出土遺物はVI期（10世紀前半）からVII期（10世紀後半）の時期に帰属する物と考える。

以上のように今回の調査における出土遺物は、9世紀代から10世紀代のものを中心とし、縄文時代、古墳時代のものもわずかにみられる。今回の調査区の北側に位置する金地蔵遺跡1次調査（平成13年度）と2次調査（平成22年度）では、縄文時代中期、古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構・遺物が見つかっており、今回の3次調査においても、時期はより限定されるものおおむね同様の傾向が見てとれる。ただしSI2のような10世紀代のものは報告されていない。遺構の分布はこれまでの調査に比べて希薄であるため、9世紀代には丘陵がゆるやかに上っていく南側に向かって居住域の縁辺となるような状況が推測されると同時に、10世紀代には南側のより高台の部分に居住域が広がった可能性も推測される。

2. S I 1についての調査所見（第5～7図）

S I 1は2軒の竪穴建物が重複していた可能性がある。本文中では床面とカマドの遺存する建物をS I 1とし、棚状に遺存する部分は先行する竪穴建物の床面である可能性を記したが、S I 1の「棚状施設」と考えられる点があり、ここで本文中の事実記載とは別に調査所見を記載しておきたい。

①竪穴埋土上面の焼土粒の分布状況

S I 1のカマドは東コーナー部に位置しており、その上面部分には焼土粒が検出された。それとは別に南コーナー部にも焼土粒が散っていた。遺構検出時の平面形もやや不整形で、建物の重複およびS I 1とは別のカマドの検出が予想されたが、掘り下げていく過程で別カマドは検出されず、元々あつたとしても、S I 1の建物を掘る際に壊された可能性があると推測した。

②竪穴内の埋土の堆積状況

S I 1内に十字に設置したセクションの観察では、S I 1はレンズ状に自然堆積で埋没したと考えられた。掘り下げていく過程でも硬化面など床面に相当しそうな堆積は検出されなかった。出土遺物の時期差があまり大きないことなどからも、重複する建物があったとすれば、先行する建物があり、それが埋没しきらない時点にほぼ同位置で掘り返してS I 1を建て、先行する建物より深い位置を床面としたと考えたが、セクションの観察では建物の重複を示す明瞭な痕跡は確認できなかった。

③建物とカマドの掘方の観察

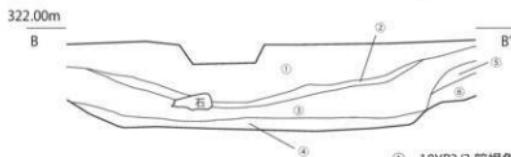
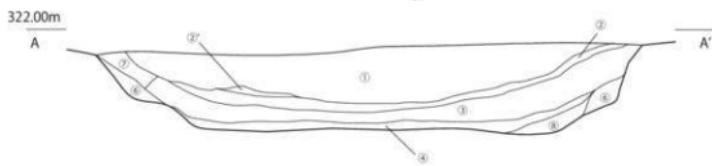
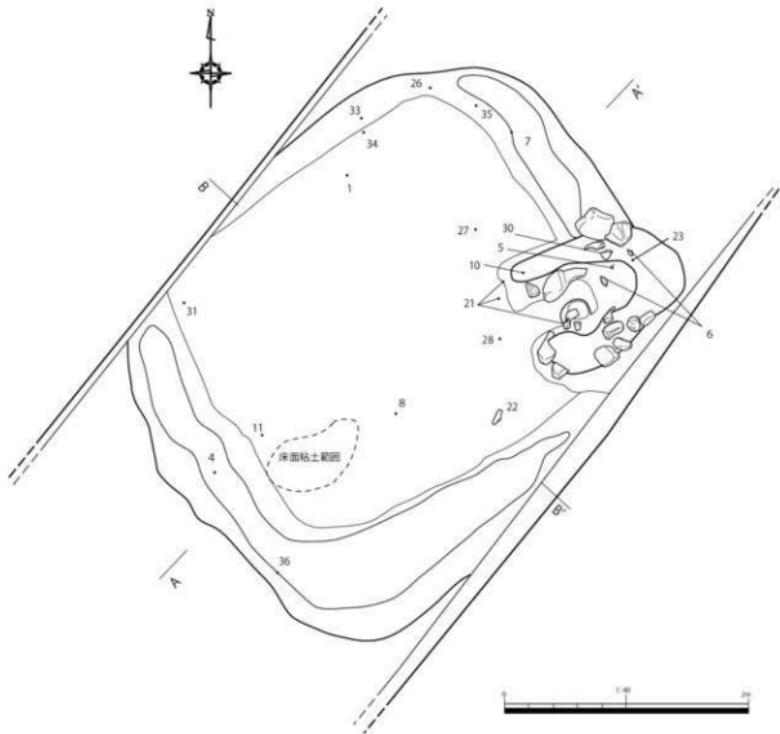
棚状部分は、北西壁を除く三辺に遺存し、S I 1の床面との高低差は25～35cmを測る。また、カマドの袖の下端および焚出部に相当する部分はS I 1の床面に接しており、棚状部分より低い位置にあるため、東コーナー部のカマドはS I 1に帰属するものである。その一方で、先行する建物の床面であるはずの棚状部分の上に、袖を構築するために削り残した地山が、蒲鉾状に遺存していた。建物とカマドの掘方を観察するかぎりでは、カマドは棚状部分の存在を前提として構築されている。

本文中では①を根拠として、建物の重複の可能性を記したが、②③からは、特に北東側の地山を削り出して構築された棚状部分は、カマドと一体化した構造がみられた。それぞれ別時期に構築されたとは考えにくく、「棚状施設」の可能性が高い。竪穴建物跡の棚状施設については、山梨県内では北杜市長坂町の石原田北遺跡や北杜市須玉町の上ノ原遺跡などの例があり、当遺跡の所在する笛吹市内でも調査事例が増えつつあるという。以上、現場調査時点では、竪穴建物の「棚状施設」についての認識に乏しく、調査所見と報告書をまとめるにあたって気付いた点を記した。

最後に、今回の発掘調査ならびに報告書作成業務において、多大なご理解とご協力をいただいた社会福祉法人博愛保育園をはじめとする関係各位・諸機関に心から感謝を申し上げたい。

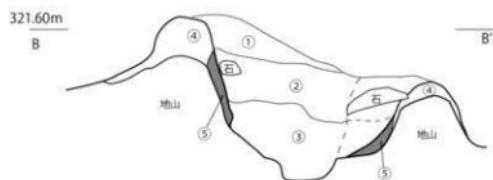
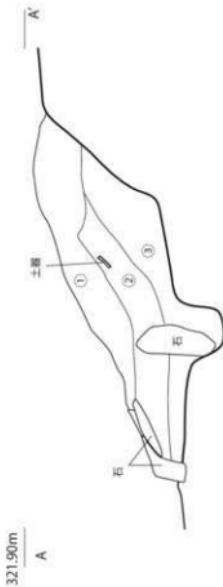
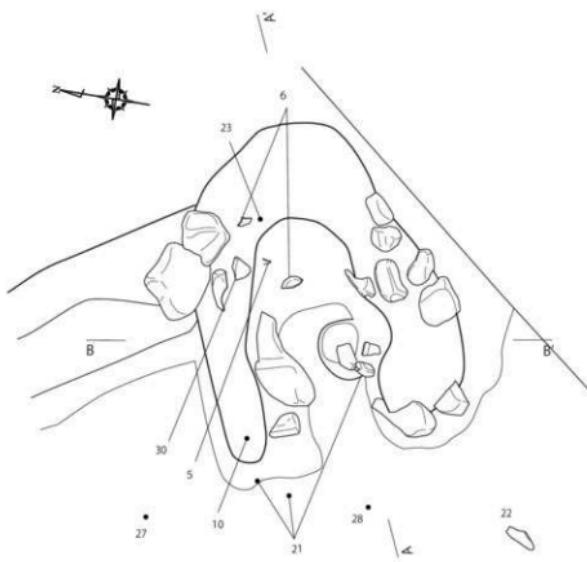
引用・参考文献

- 石原田北遺跡発掘調査団他 2001『石原田北遺跡』マート地点
桐生直彦 2005『竪穴建物跡の研究』
財団法人山梨文化財研究所他 2011『金地蔵遺跡（2次）』笛吹市文化財調査報告書第20集
八代町 1975『八代町誌』
八代町教育委員会他 1999『堀川遺跡』八代町埋蔵文化財調査報告書第14集
八代町教育委員会他 2003『金地蔵遺跡』八代町埋蔵文化財調査報告書第15集
山梨県 1999『山梨県史』資料編2原始・古代2
山梨県考古学協会 1992『甲斐型土器—その編年と年代—』甲斐型土器研究グループ



- ① 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
- ② 10YR 3/2 黒褐色砂質シルト
- ②' 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 炭化物多く含む
- ③ 10YR3/3 暗褐色砂質シルトに 10YR4/6 褐色砂質シルトを
粒状に含む。炭化物粒含む。土器小片含む
- ④ 10YR2/2 黑褐色砂質シルト 炭化物粒少く含む。固く綿まる。
- ⑤ 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 炭化物粒、焼土少量含む。土器小片含む。
- ⑥ 10YR3/3 暗褐色砂質シルトに 10YR4/6 褐色砂質シルト 30% 混じる。
- ⑦ 10YR3/1 黒褐色砂質シルト
- ⑧ 10YR3/3 暗褐色砂質シルトに 10YR4/6 褐色砂質シルト 10% 混じる。

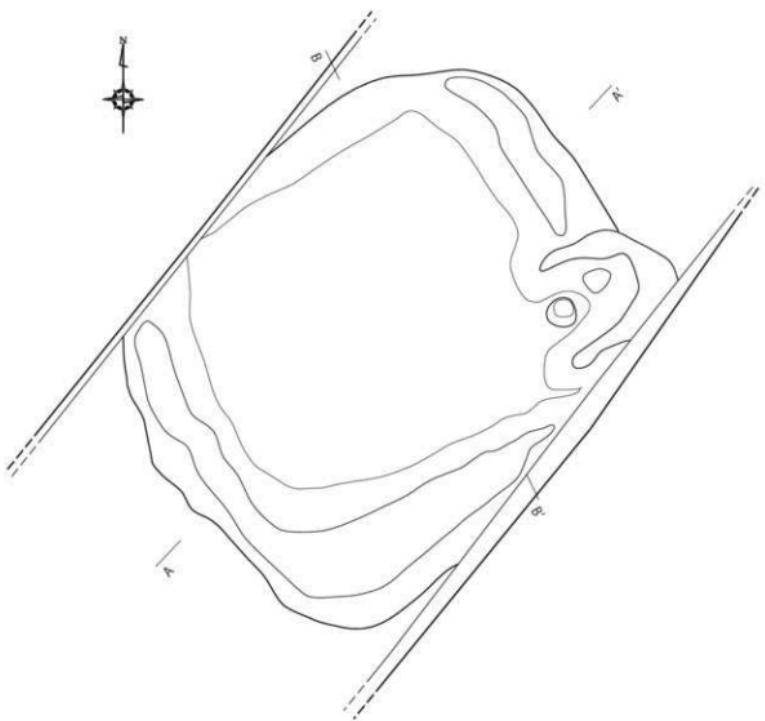
第5図 S I 1



0 1:20 1m

- ① 10YR3/4暗褐色砂質シルト
- ② 10YR2/1黒色砂質シルト 炭化物・焼土多く含む
- ③ 10YR3/3暗褐色砂質シルト 炭化物多量含む。綿まり弱い。
- ④ 10YR6/1褐色細砂に10YR4/1褐色粘土質シルト30%混じる 固くしまる。石・土器片含む。カマド袖。
- ⑤ 焼土層

第6図 S I 1カマド



322.00m

A

A'

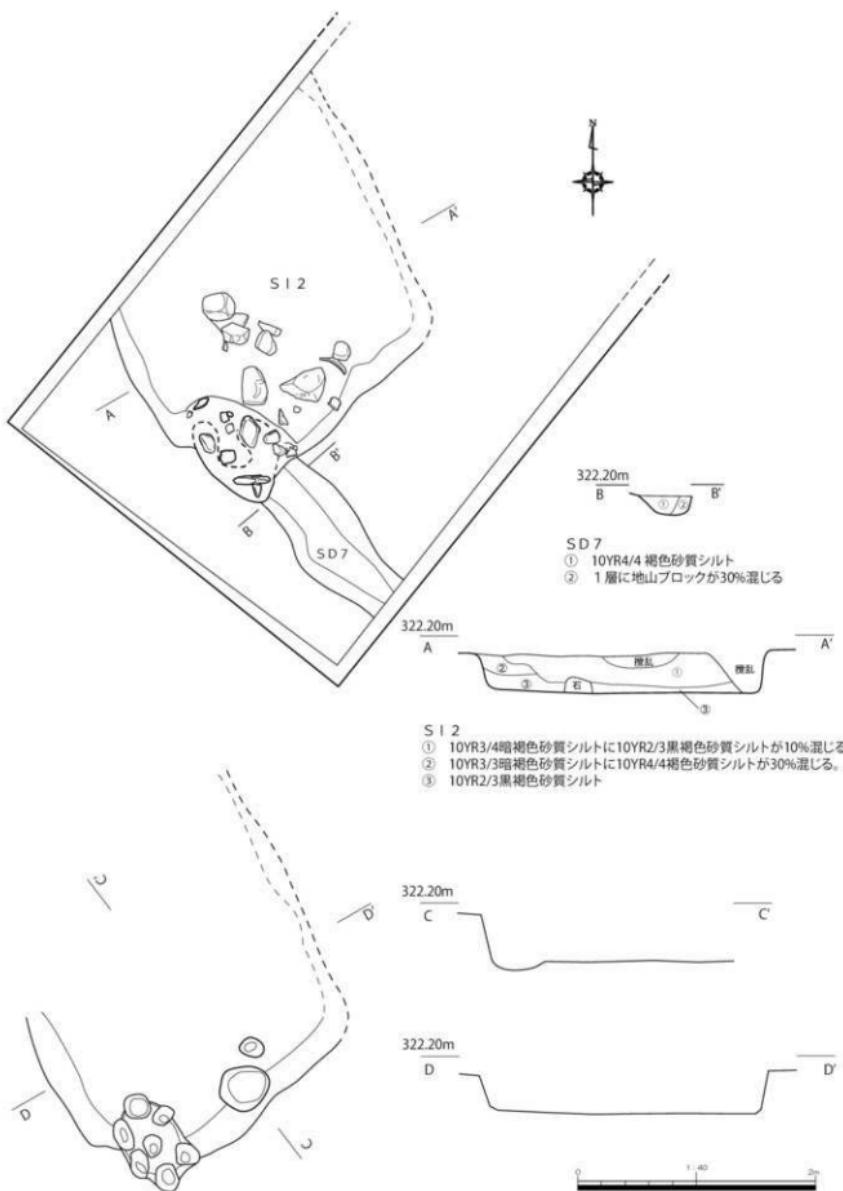
322.00m

B

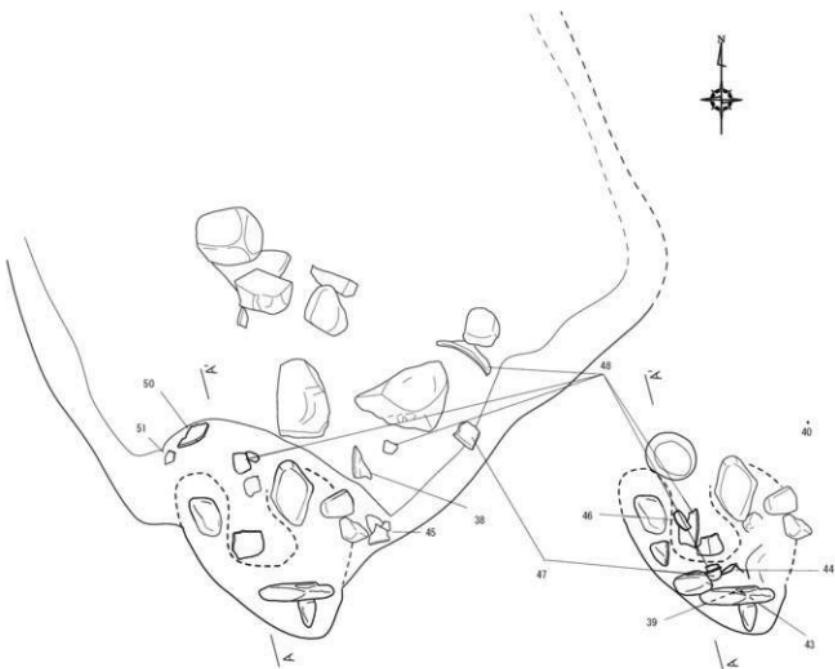
B'



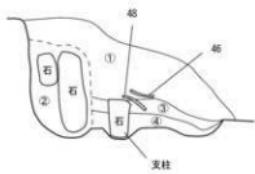
第7図 S I 1掘方



第8図 S 1 2・SD 7



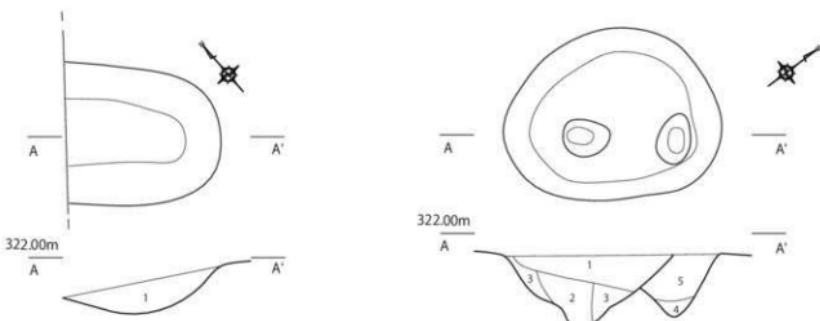
322.300m
A ————— A'



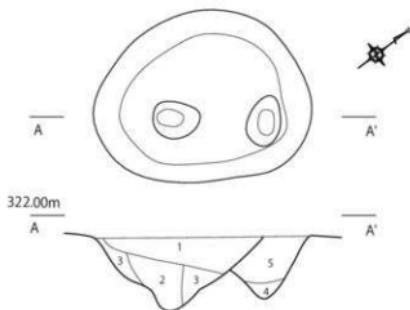
0 1:20 1m

- ① 10YR4/3暗褐色砂質シルト
- ② 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト 固く締まる。炭化物・焼土含む
- ③ 10YR3/4暗褐色砂質シルト 焼土多く含む
- ④ 7.5YR6/1細砂(灰層)

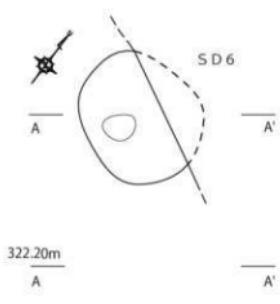
第9図 S-1 2カマド



SK 1
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト

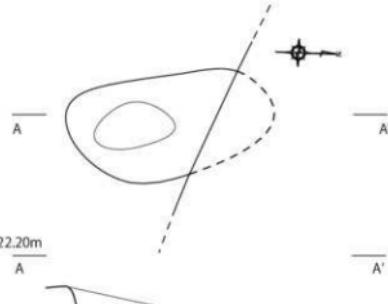


- SK 2
 1 10YR3/2 黒褐色砂質シルトに 10YRA/6 褐色砂質シルトの地山ブロック 10% 混じる。
 2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
 3 10YR3/3 暗褐色砂質シルトに 10YRA/6 褐色砂質シルトの地山ブロック 30% 混じる。
 4 10YR3/4 暗褐色砂質シルトに 10YRA/6 褐色砂質シルトの地山ブロック 10% 混じる。
 5 10YR3/2 黒褐色砂質シルトに 10YRA/6 褐色砂質シルトの地山ブロック 5% 混じる。



322.20m

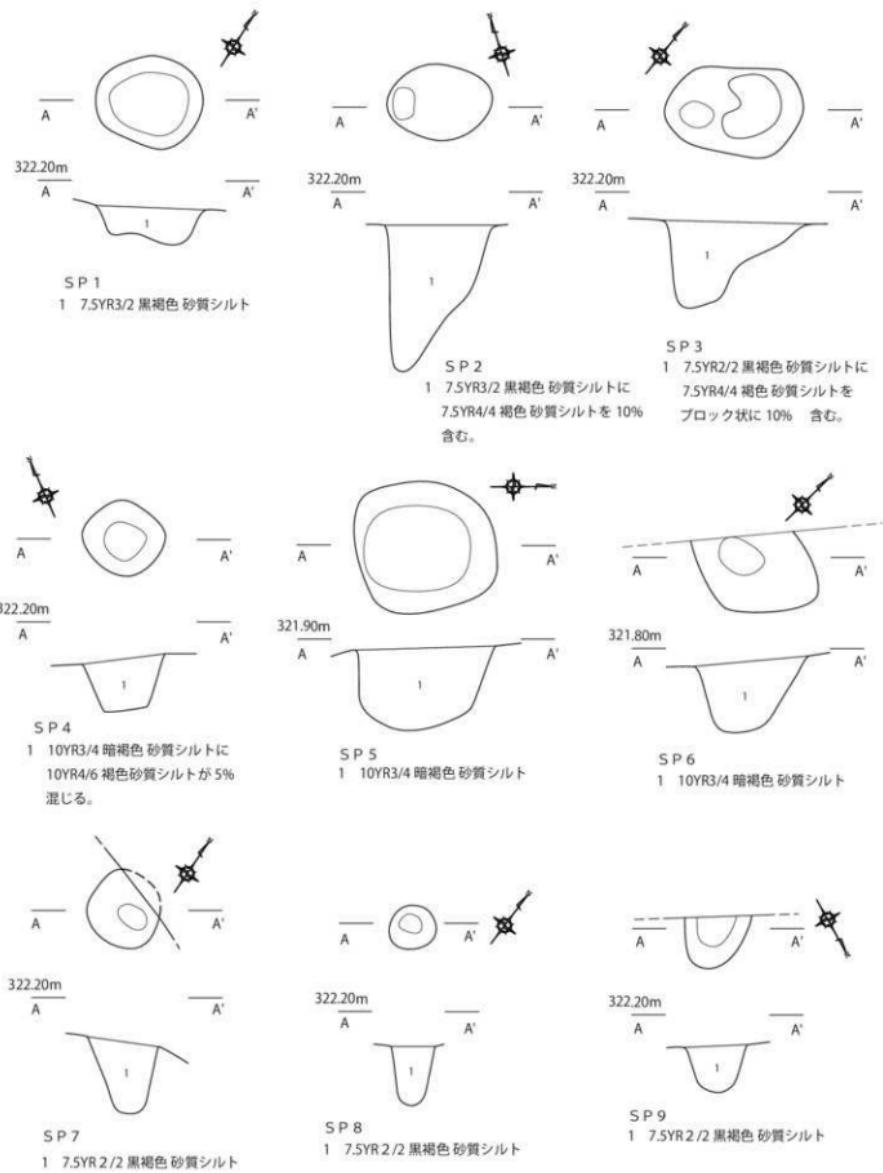
SK 3
1 7.5YR3/2 黒暗褐色砂質シルト



SK 4
1 7.5YR3/1 黒暗褐色砂質シルト

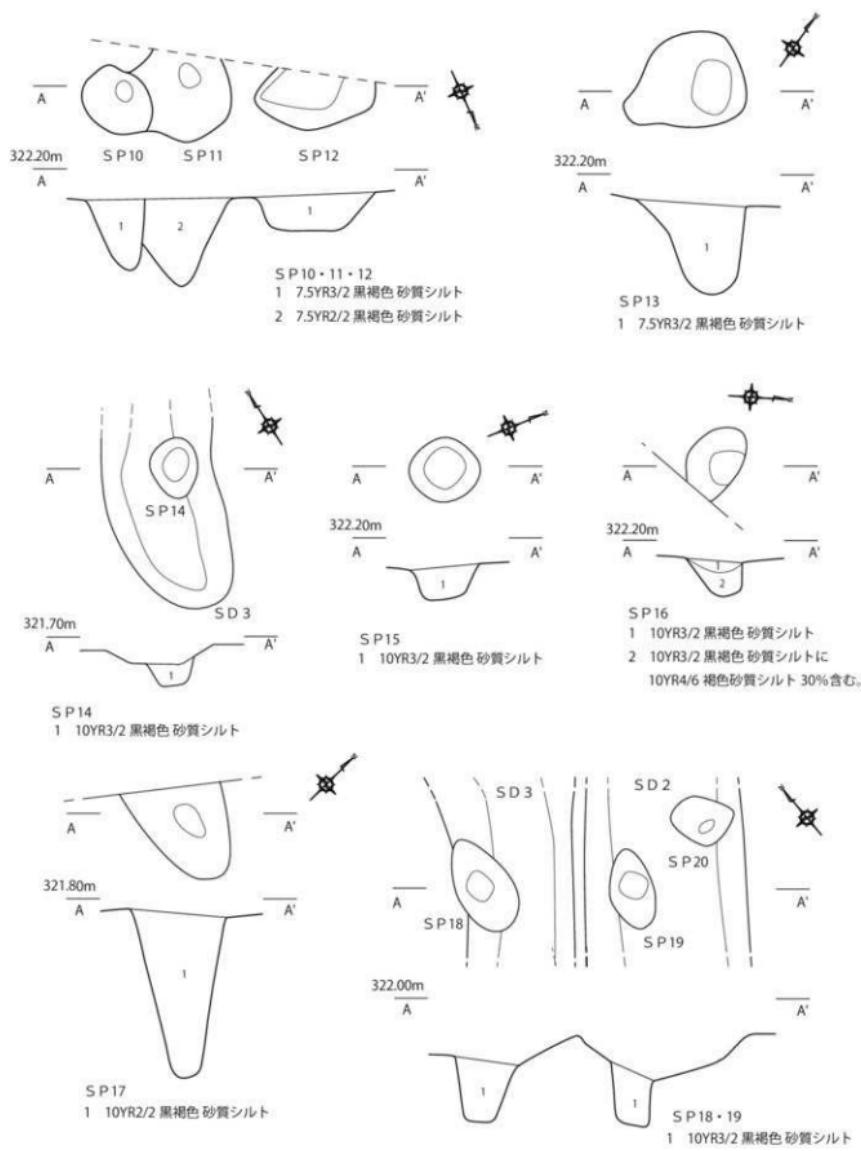


第 10 図 土坑

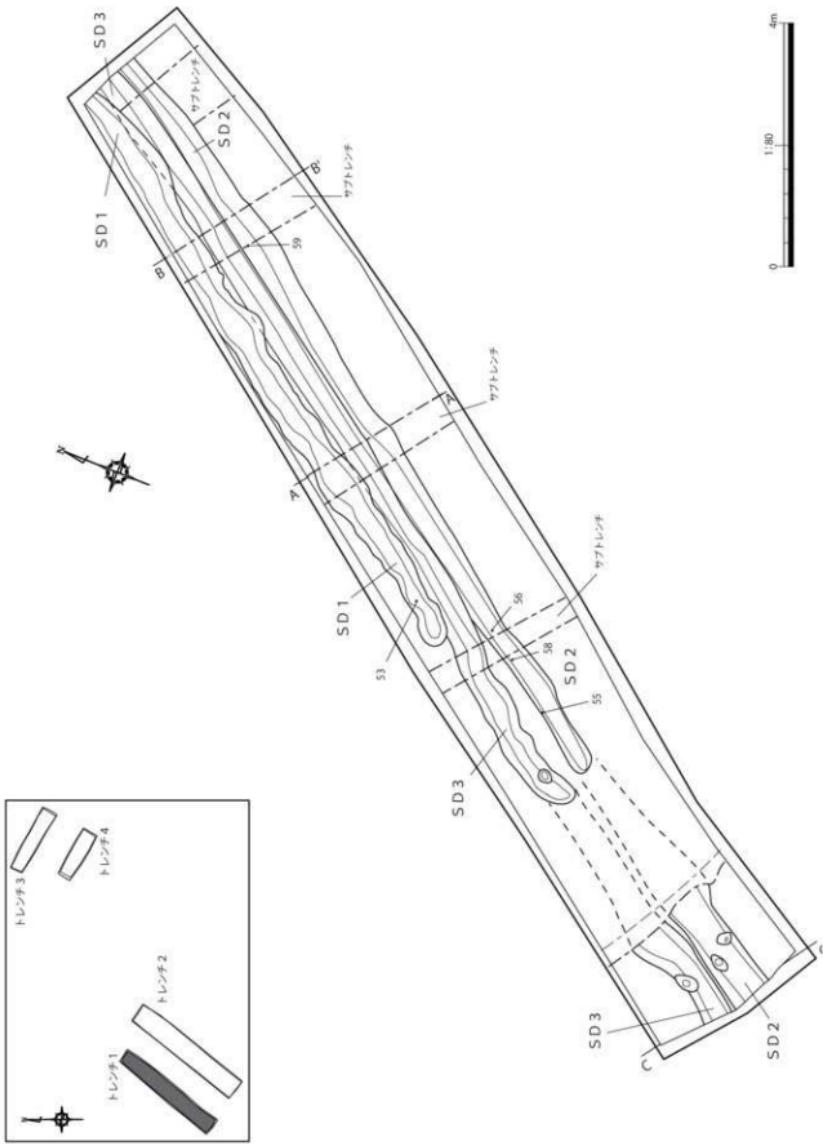


第11図 ピット(1)

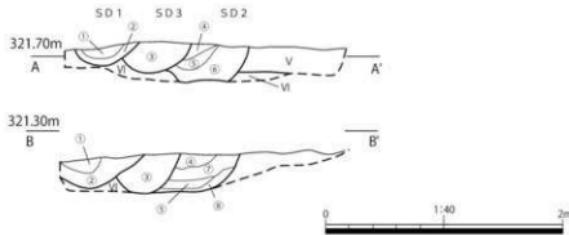




第12図 ピット(2)



第13図 SD1・2・3 (1)



SD 1

① 10YR3/4 暗褐色砂質シルト (径1~20mmの礫多く含む。砂礫層)
② 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト (固く締まる)

SD 3

③ 10YR3/3 暗褐色砂質シルトに 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10%含む。

SD 2

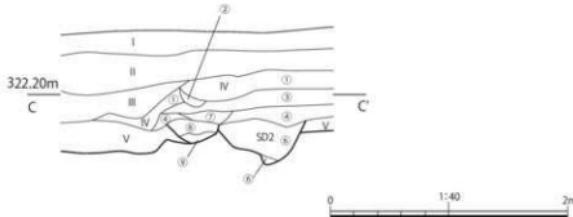
④ 10YR4/4 褐色砂

⑤ 10YR4/4 褐色粗砂 (砂層)

⑥ 10YR3/3 褐褐色砂質シルトに 10YR4/4 褐色砂質シルトをブロック状に30%含む。

⑦ 10YR4/4 褐色砂に 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトが層状に30%混じる。

⑧ 10YR3/3 暗褐色砂質シルト



(砂礫層) ① 10YR3/4 暗褐色粗砂

② 10YR4/4 褐色砂質シルト

(砂礫層) ③ 10YR3/4 暗褐色粗砂 (径0.5cmの礫多く含む)

④ 10Y3/2 黒褐色砂質シルト

⑤ 10YR3/3 暗褐色砂質シルト

SD 2

⑥ 10YR4/4 褐色砂質シルト

⑥⑦ に径1cmの礫50%混じる (砂礫層)

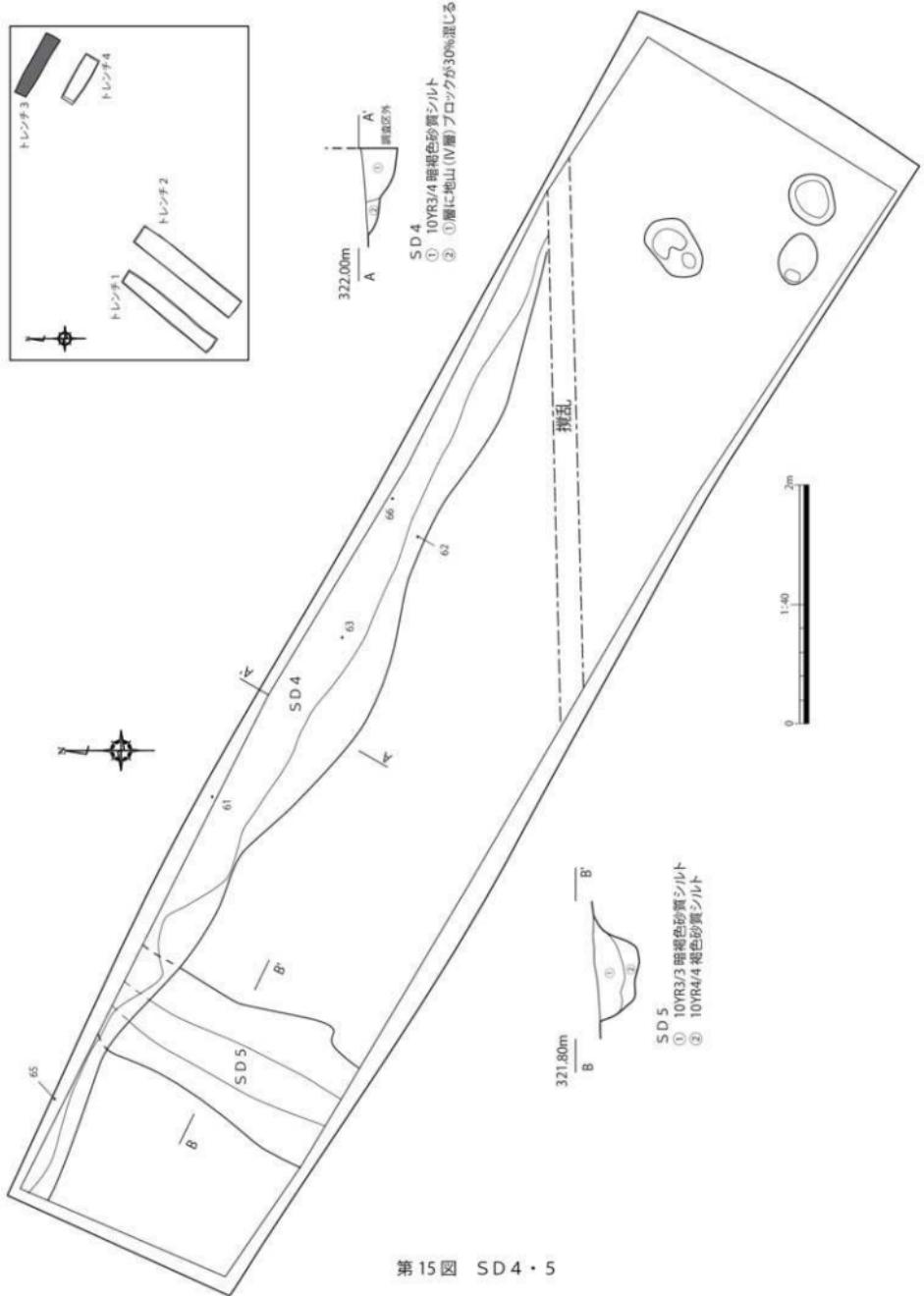
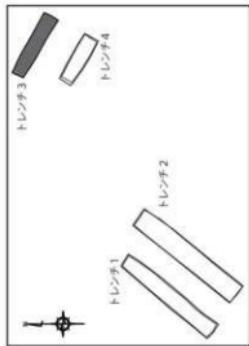
⑦ 10YR4/4 褐色砂質シルトに 径1cmの礫混じる (砂礫層)

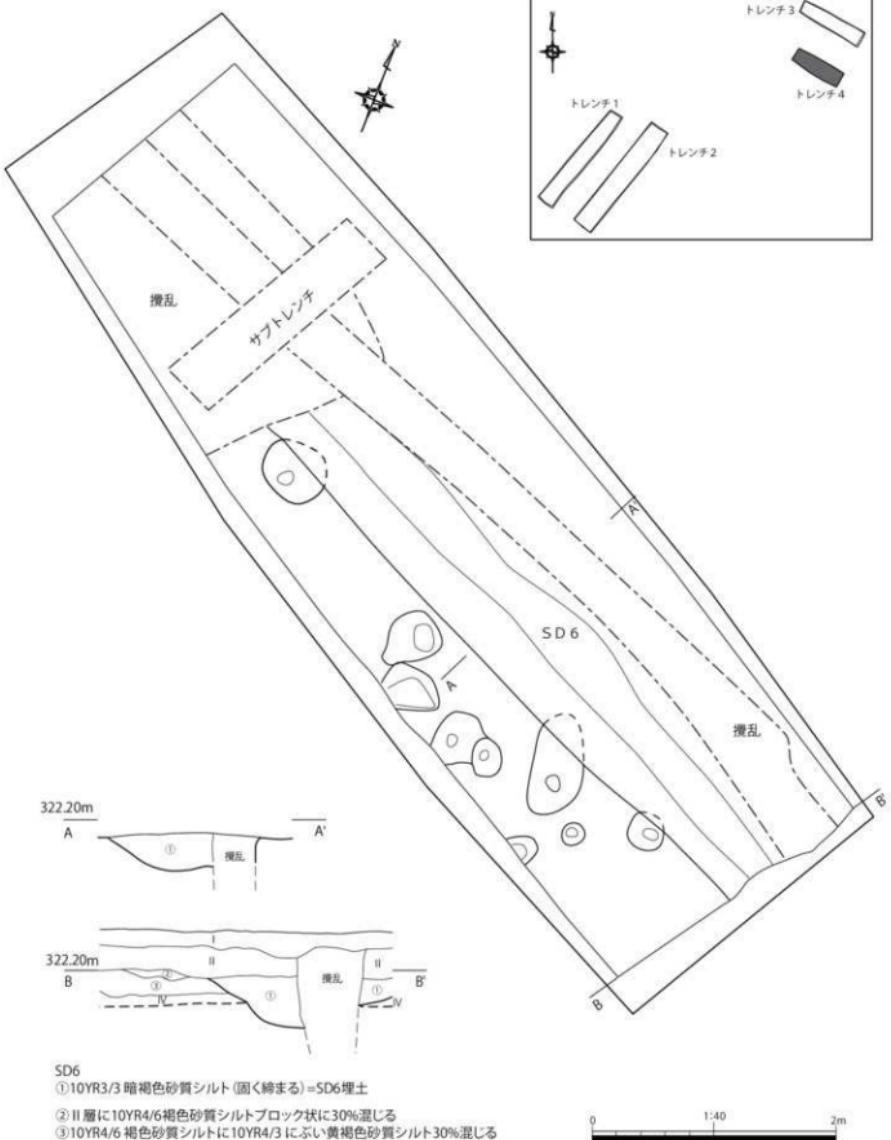
SD 3

⑧ 10YR3/3 暗褐色砂質シルト (固く締まる。土器小片少量含む)

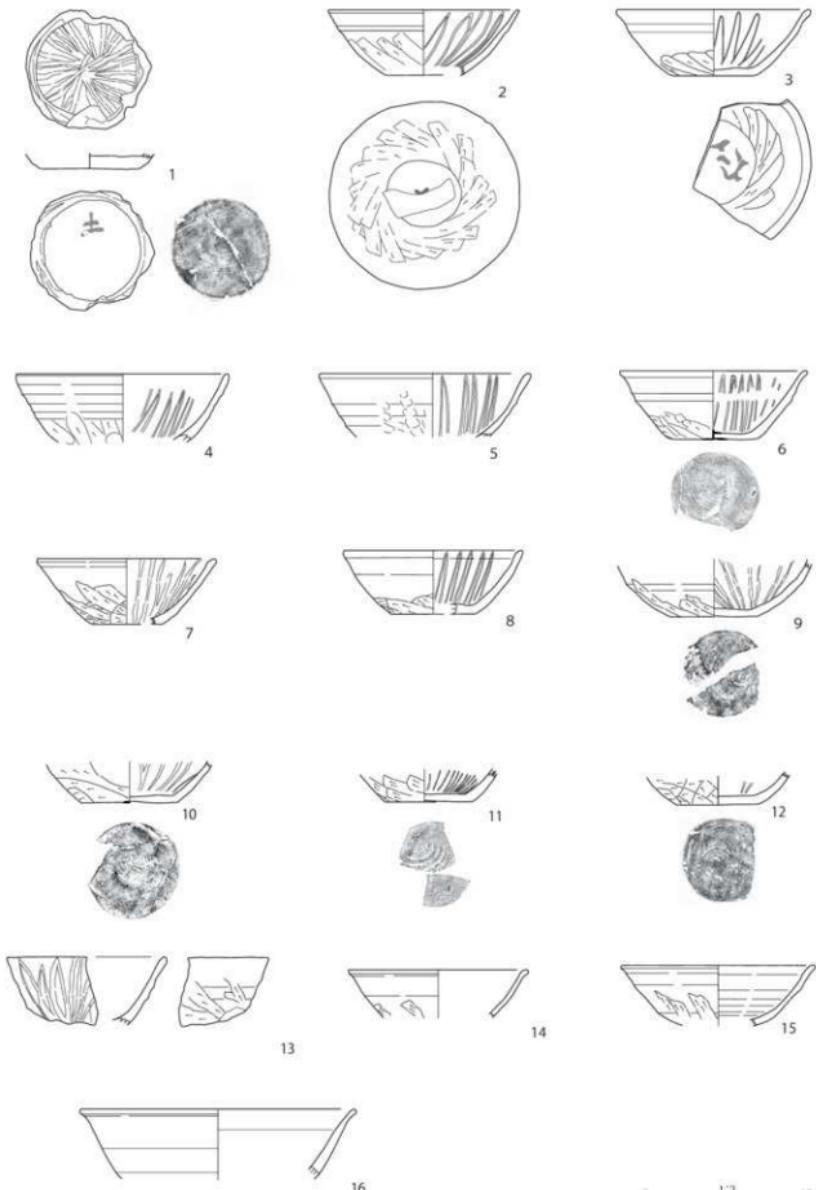
⑨ 10YR3/3 暗褐色粗砂 (径0.5~1.0cmの礫多く含む)

第14図 SD 1・2・3 (2)

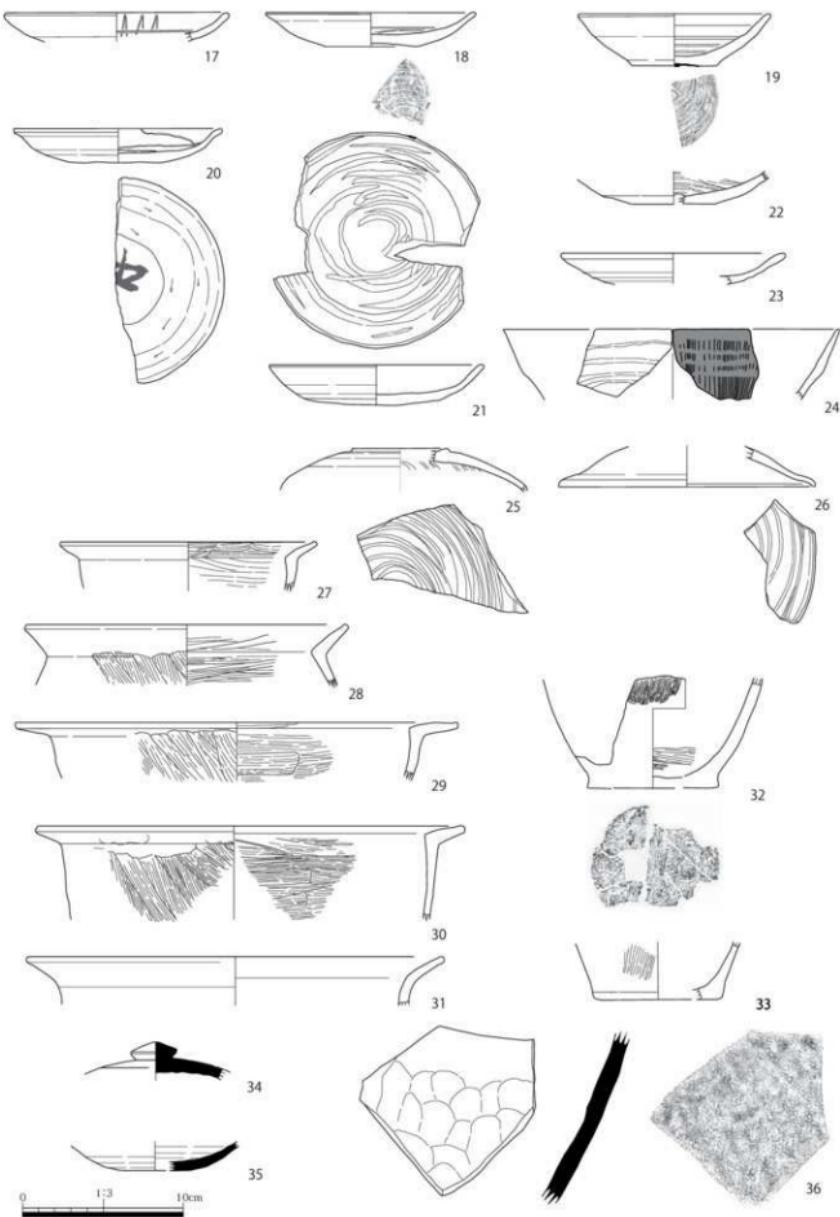




第16図 SD 6



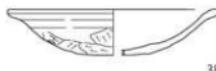
第17図 SII出土遺物(1)



第18図 S I 1出土遺物（2）



37



38



39



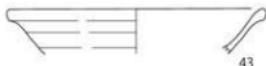
40



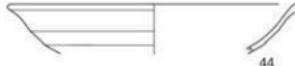
41



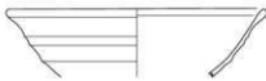
42



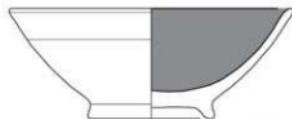
43



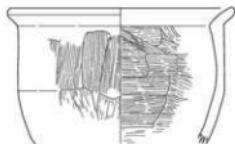
44



45



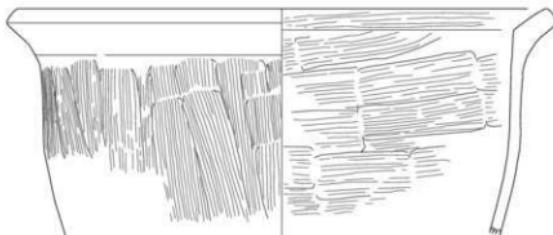
46



47



49



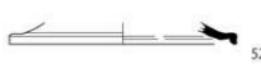
48



50



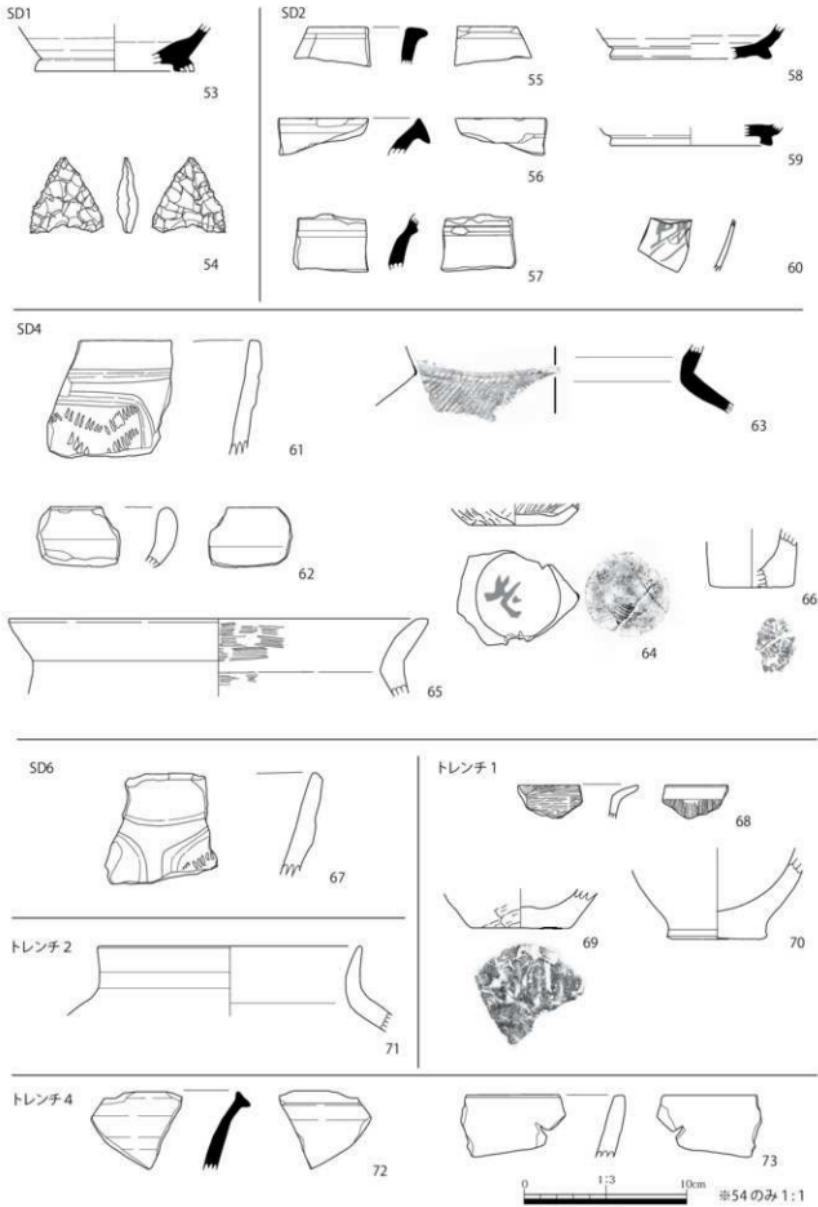
51



52



第19図 S I 2出土遺物



第20図 SD1・2・4・6, 遺構外出土遺物

第2表 遺物觀察表(1)

構造 番号	出土 場所	器種	法量(cm) ⁽¹⁾	部位	調査の特徴		色調	土	焼成	備考
					外観	内面				
1 S1 土陶器	壺	—	6.0 <19>	底部	底部一墨具、削切頭 折り後、底部	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
2 S1 土陶器	壺	11.4	4.6	4.0	口縁部一底部 1/2 折り後、底部	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
3 S1 土陶器	壺	(12.0) (5.2)	4.1	—	底部一墨具、削切頭 折り後、底部	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
4 S1 土陶器	壺	(13.0)	—	<4.3>	口縁部 1/4	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
5 S1 土陶器	壺	(12.0)	—	<3.9>	口縁部 1/4	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
6 S1 土陶器	壺	11.5	5.4	4.2	口縁 1/3 ~ 底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
7 S1 土陶器	壺	(11.0) (4.0)	4.0	—	口縁 1/5 ~ 底部 1/8 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 2.5YR6/8相	2.5YR6/8相	赤・黒色粒	良好	
8 S1 土陶器	壺	(13.0) (5.2)	3.9	—	口縁 1/4 ~ 底部 1/3 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 2.5YR6/8相	2.5YR6/8相	赤・黒色粒	良好	
9 S1 土陶器	壺	—	5.2	<3.5>	口縁 1/4 ~ 底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 2.5YR6/8相	2.5YR6/8相	赤・黒色粒	良好	
10 S1 土陶器	壺	—	6.0	<2.5>	口縁一底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 2.5YR6/8相	2.5YR6/8相	赤・黒色粒	良好	
11 S1 土陶器	壺	—	(6.0)	<2.0>	口縁下部 1/3 ~ 底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒、黄	良好	
12 S1 土陶器	壺	—	(5.0)	<1.7>	口縁 1/2 ~ 底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
13 S1 土陶器	壺	—	—	<4.2>	口縁 1/3 ~ 底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒、黄	良好	
14 S1 土陶器	壺	(11.0)	—	<3.0>	口縁部 1/3 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
15 S1 土陶器	壺	(12.0)	—	<3.7>	口縁 1/3 ~ 体部 1/3 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 2.5YR6/8相	2.5YR6/8相	赤・黒色粒	良好	
16 S1 土陶器	壺	(17.0)	—	<4.3>	口縁 1/3 ~ 底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
17 S1 土陶器	壺	(14.0)	—	<1.8>	口縁 1/3 ~ 底部 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
18 S1 土陶器	壺	(13.2) (6.0)	2.1	—	口縁 1/5 ~ 底部 1/4 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
19 S1 土陶器	壺	(12.0) (5.4)	3.3	—	口縁 1/5 ~ 底部 1/4 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
20 S1 土陶器	壺	(13.0) (5.4)	2.1	—	口縁 1/2 ~ 底部 1/2 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 2.5YR6/8相	2.5YR6/8相	赤・黒色粒	良好	
21 S1 土陶器	壺	13.4	4.0	2.5	口縁 1/5 ~ 底部 1/4 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 2.5YR6/8相	2.5YR6/8相	赤・黒色粒	良好	
22 S1 土陶器	壺	—	(5.2)	<2.0>	口縁 1/5 ~ 底部 1/4 底部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
23 S1 土陶器	壺	(14.0)	—	<1.9>	口縁部 1/4 口縁部 1/3	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	
24 S1 黑色土器	壺	(21.0)	—	<4.4>	口縁部 1/3 口縁部 1/2	墨文(焼付)、 7.5YR7/6相	10YR2/1 黑	赤・黒色粒、黄	良好	
25 S1 土陶器	壺	—	(6.0)	<2.7>	口縁部 1/3 ~ 体部下部 体部一墨具、削切頭	墨文(焼付)、 5YR6/6相	5YR6/6相	赤・黒色粒	良好	

第3表 遺物觀察表(2)

横列	出土 番号	種別	器種	法面 寸径 (cm) < 底径	法面 寸径 (cm) > 底径	底面 寸径 (cm) < 底径	底面 寸径 (cm) > 底径	調査の特徴		内面 寸面 外面 寸面	削土	焼成	備考
								外面	内面				
26	S11	土師器	蓋	(16.0)	-	<2.5> 口縁1/8~全体小	口縁1/8~全体小	クロコナデ	クロコナデ 勾文(印)3YR6/3に付く相 心印(印)	3YR5/4に付く 3YR4/1 斜面	赤・赤色粒、茎付	良好	
27	S11	土師器	壺	(16.0)	-	<3.0>	口縁1/8~全体小	ナシ	黒色のハナメ	3YR5/4に付く 3YR5/4 斜面	白色粒、茎付	良好	
28	S11	土師器	壺	(11.0)	-	<3.8>	口縁1/8~全体小	黒色のハナメ	黒色のハナメ	3YR5/4に付く 3YR4/4 斜面	白色粒、茎付	良好	
29	S11	土師器	甕	(27.6)	-	<3.8>	口縁1/8~全体小	黒色のハナメ	黒色のハナメ	3YR5/4に付く 3YR4/1 斜面	白色粒、茎付	良好	
30	S11	土師器	甕	(28.8)	-	<3.8>	口縁1/8~全体小	黒色のハナメ	黒色のハナメ	3YR5/4に付く 3YR4/4 斜面	白色粒、茎付	良好	
31	S11	土師器	甕	(26.0)	-	3.1	口縁1/8~全体小	ヨココナデ	ヨココナデ	3YR5/6 明治期	白色粒	良好	
32	S11	土師器	甕	-	8.2	<7.0>	底部1/8~底部	黒色のハナメ 黒削一木漆絵	黒色のハナメ	2YR5/8 明治期	白色粒、茎付	良好	
33	S11	土師器	甕	-	(10.0)	<6.6>	底部小	ハケヌ	黒削剥離	3YR5/4に付く 3YR5/4 斜面	黑色粒、茎付	良好	
34	S11	土師器	甕	-	-	<2.4>	つまみ足	ヘラケ(2)	クロコナデ	3YR6/1 斜面	白色粒	良好	
35	S11	土師器	甕	-	(4.0)	<1.8>	底部1/8~全体小	クロコナデ	クロコナデ	3YR6/1 斜面	白色粒	良好	
36	S11	土師器	甕	-	-	-	剥離	タキ+、底脚	当其直	7.5Y4/2灰オリ一 ヲ	3YR5/6 明治期	白色粒	良好
37	S12	土師器	甕	(13.0)	-	<3.7>	口縁1/3~全体下位	口コナデ	口コナデ	3YR5/6 明治期	白色粒	白色粒	良好
38	S12	土師器	甕	(13.0) (4.6)	2.3	口縁1/3~底部1/3	ハラコナデ	口削剥離	スヌ付	7.5Y5/6 明治期	5YR6/6 斜面	白色粒	良好
39	S12	土師器	甕	(16.0)	-	<3.8>	口縁1/6~全体中位	クロコナデ	下平~ヘラケ(2)	3YR5/4に付く 3YR5/4 斜面	赤・赤色粒、茎付	良好	
40	S12	土師器	甕	(13.4) (4.7)	2.5	口縁1/4~底部2/3	クロコナデ	手持ちによるハラコ	口削剥離	2.5YR4/8 素燒色	黑色粒	良好	
41	S12	土師器	甕	(14.0)	-	<2.9>	口縁1/8~全体小	クロコナデ	口削剥離	3YR4/3に付く 3YR4/3 斜面	白色粒	良好	
42	S12	土師器	甕	(14.0)	-	<4.2>	口縁1/8	クロコナデ、口削剥離~玉縁状	口削剥離	7.5YR6/6 斜面	白色粒、茎付	やや不良	
43	S12	土師器	甕	(16.0)	-	<2.8>	口縁1/8	クロコナデ、口削剥離~玉縁状	口削剥離	5YR6/6 斜面	白色粒、白・白色粒	良好	
44	S12	土師器	甕	(18.0)	-	<4.1>	口縁1/8	クロコナデ	口削剥離~玉縁状	7.5YR4/6 斜面	白色粒	良好	
45	S12	土師器	甕	(16.0)	-	<4.2>	口縁1/8	クロコナデ	口削剥離~玉縁状	7.5YR4/6 斜面	白色粒	良好	
46	S12	土師器	甕	(17.4) 7.8	6.8	口縁1/8~底部2/3	クロコナデ	口削剥離~玉縁状	口削剥離	5YR5/6 明治期 N2/0 黒	白色粒、茎付	良好	
47	S12	土師器	甕	(14.0)	-	-	口縁1/8~底部	黒色のハナメ	黒色のハナメ	7.5YR4/4 斜面	白色粒、茎付	良好	
48	S12	土師器	甕	(34.0)	-	<14.0>	口縁1/8~底部	黒色のハナメ	黒色のハナメ	7.5YR4/4 斜面	白色粒、茎付	良好	
49	S12	土師器	甕	-	-	<2.6>	口縁1/8	ナシ	ハゲヌ、ヨリナデ	7.5YR2/2 明治期	白色粒、茎付	良好	
50	S12	土師器	甕	-	6.5	<5.5>	底部1/8~底部	黒色のハナメ	黒色のハナメ	2.5YR1/7.1系黑	白色粒、茎付	良好	

第4表 造物觀察表(3)

構成番号	出土地点	種別	標本	法面(cm)、()は側面、 < >は幅(高さ)	部位	調査の特徴		土	地質	備考
						外側	内側			
51	S12	瓦類	蓋	(16.0) - 1.1径	-<2.0> [横幅] 高さ	口27.1直ア	口27.1直ア	5Y5/1灰	白色粘	良好
52	S12	瓦類	蓋	(14.0) - 1.1径	-<1.3> [横幅] 高さ	口27.0直ア	口27.0直ア	5Y8/1灰	白色粘	良好
53	S01	瓦類	蓋	- (9.8)	-<2.9> [横幅] 高さ	口27.0直ア	口27.0直ア	2.5Y5/3灰黒	白	良好
54	S01	石器	石磚	1.53cm×5.0cm 1.53cm×5.0cm	厚さ [平行]	[E4] 磐麻石 重積 - 0.7-28	[E4] 磐麻石			門貝族客繩
55	S02	瓦類	蓋	- (10.0)	-<2.4> [横幅] 高さ	口27.0直ア	口27.0直ア	10Y5/1灰灰	白	良好
56	S02	瓦類	蓋	- (10.0)	-<2.3> [横幅] 高さ	口27.0直ア	口27.0直ア	5Y4/1灰	白色粘	良好
57	S02	瓦類	蓋	- (10.0)	-<2.1> [横幅] 高さ	口27.0直ア	口27.0直ア	5Y6/1灰	白	良好
58	S02	瓦類	窓台材	- (10.0)	-<1.0> [横幅] 高さ	口27.0直ア	口27.0直ア	2.5Y5/2灰灰	白	良好
59	S02	瓦類	窓台材	- (10.0)	-<1.2> [横幅] 高さ	口27.0直ア	口27.0直ア	10Y4/2灰灰	白色粘	良好
60	S02	瓦色土	灰	- (10.0)	-<3.2> [横幅] 高さ	墨色、口27.0直ア、ヘラダズリ	口27.0直ア	5Y6/6 灰	黑色粘	良好
61	S04	陶文	深杯	- (25.8)	-<4.7> [横幅] 高さ	法面に墨文、縫隙状工具による削 除文×(ノ)の字 ヘラダズリ、墨書+(ノ)	10Y5/4にぶい 墨	白・赤色粘、墨	良好	67と同一個体P。
62	S04	陶文	深杯	- (25.8)	-<3.7> [横幅] 高さ	口27.0直ア	10Y5/3灰灰	10Y5/3灰灰	白・赤色粘、墨	良好
63	S04	瓦類	蓋	- (25.8)	-<4.1> [横幅] 高さ	タガリ	タガリ	5Y7/1灰白	白	良好
64	S04	土器	深杯	- (25.8)	-<5.4> [横幅] 高さ	ヘカケアリ 縫部-系切刃後へ凹向文(削痕) テクスリ、墨書+(ノ) ヨコテテ	5Y6/6 灰	10Y6/4にぶい 墨	黑色粘	良好
65	S04	土器	深杯	- (25.8)	-<4.8> [横幅] 高さ	ハナメ	2.5Y3/2灰灰	白・赤色粘、墨	良好	良好
66	S04	土器	深杯	- (25.0)	-<3.6> [横幅] 高さ	ナゾ 瓦筋-木製鉢	ナゾ	2.5Y6/2灰灰	白色粘	良好
67	S06	陶文	深杯	- (25.0)	-<6.8> [横幅] 高さ	法面に墨文、縫隙状工具による削 除文×(ノ)の字 ヘラダズリ、墨書+(ノ)	10Y6/4にぶい 墨	白・赤色粘、墨	良好	61と同一個体P。
68	調食区	土器	深杯	- (25.0)	-<2.0> [横幅] 高さ	ハナメ	2.5Y5/4にぶい 墨	白・赤色粘、墨	良好	
69	調食区	土器	深杯	- (25.0)	-<2.4> [横幅] 高さ	ヘカケアリ 縫部-木製鉢、ヘア リ	2.5Y6/2灰	2.5Y8/6灰灰	白色粘	良好
70	調食区	土器	深杯	- (25.0)	-<5.5> [横幅] 高さ	口27.1直ア	ナゾ	5Y5/6灰灰	白色粘	良好
71	調食区	土器	深杯	(16.2) - (25.0)	-<4.3> [横幅] 高さ	ナゾ	ナゾ	5Y5/6灰灰	白・赤色粘	良好
72	調食区	土器	深杯	- (25.0)	-<4.8> [横幅] 高さ	口27.0直ア	ロクロナデ	5Y5/4オリーブ	白	良好
73	調食区	土器	深杯	- (25.0)	-<3.8> [横幅] 高さ	ナゾ	ナゾ	5Y4/6灰灰	白	良好



1 調査区全景（南西から）



2 調査区全景（南から）

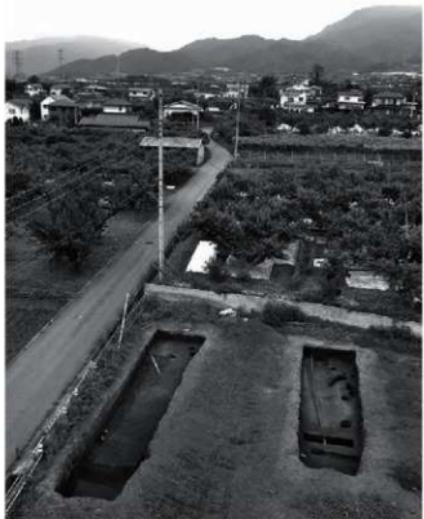
図版2



3 トレンチ1・2（南から）



4 トレンチ1・2（北西から）



5 トレンチ3・4（北西から）



6 トレンチ1・2（北東から）



7 トレンチ3・4（北西から）

図版4



8 SI1 東西セクション（南西から）



9 SI1 南北セクション（北西から）



10 SI1 第3層遺物出土状況（遺物番号 20）（北西から）



11 SI1 床面遺物出土状況（遺物番号 22）（南西から）



12 SI1 床面検出状況（南東から）



13 SI1 カマド（南西から）



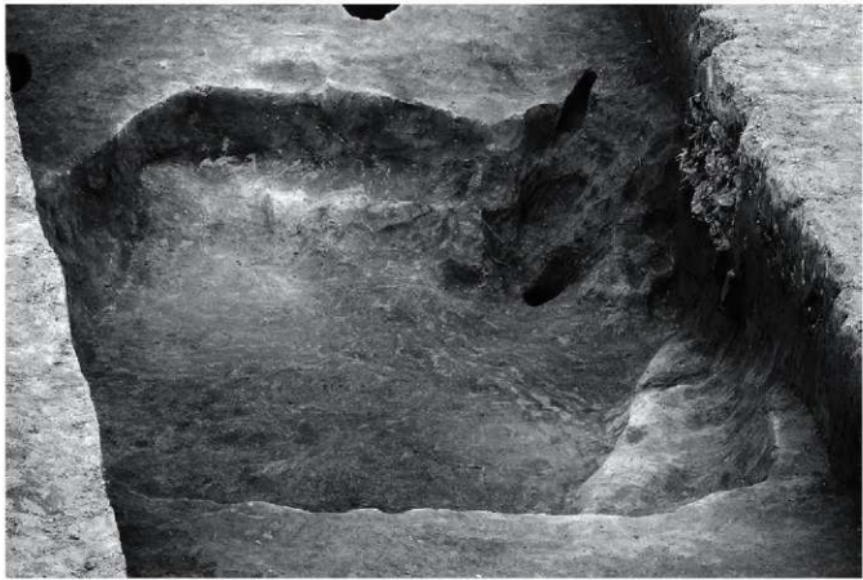
14 SI1 カマド内遺物出土状況（南西から）



15 SI1 カマド前面 袖構築材検出状況（南西から）



16 SI1 カマド断面（南西から）



17 SI1 完掘（南西から）

図版6



18 SI2 セクション（南東から）



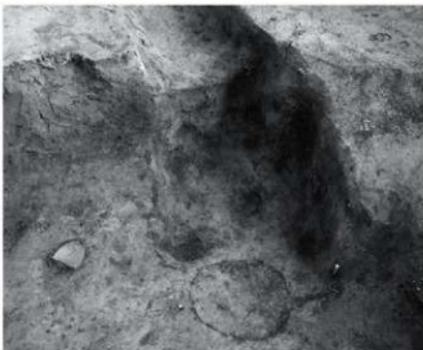
19 SI2 カマド検出状況
(北西から)



20 SI2 カマドセクション
(北東から)



21 SI2 カマド内遺物出土状況（北西から）



22 SI2 カマド完掘（北西から）



23 SI2 完掘（南から）

図版8



24 SP1 セクション（南西から）



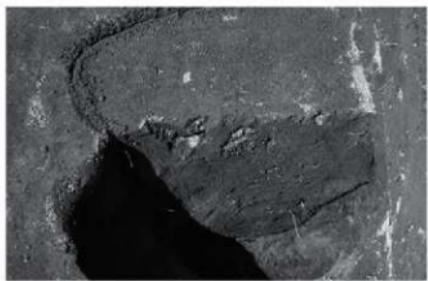
25 SP4 セクション（南西から）



26 SP4 完掘（南西から）



27 SP5 セクション（東から）



28 SP6 セクション（北東から）



29 SP7 セクション（南東から）



30 SP10・11 セクション（北から）



31 SP16 セクション（南から）



32 SP17 セクション（南西から）



33 SK1 セクション（北西から）



34 SK2・3 セクション（南東から）



35 SK2・3 完掘（南東から）



36 SK4 セクション（南東から）

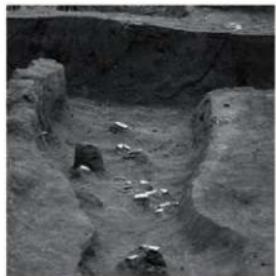


37 SD1 セクション（南西から）上）北側 下）南側



38 SD1・2・3 完掘（北東から）

図版 10



39 SD2・3 遺物出土状況 左) (北東から) 中)(南西から) 右) (南西から・近影)



40 SD4 セクション (北西から)



42 SD5 セクション (南西から)

43 SD5 完掘 (南西から)



44 SD6 完掘（西から）

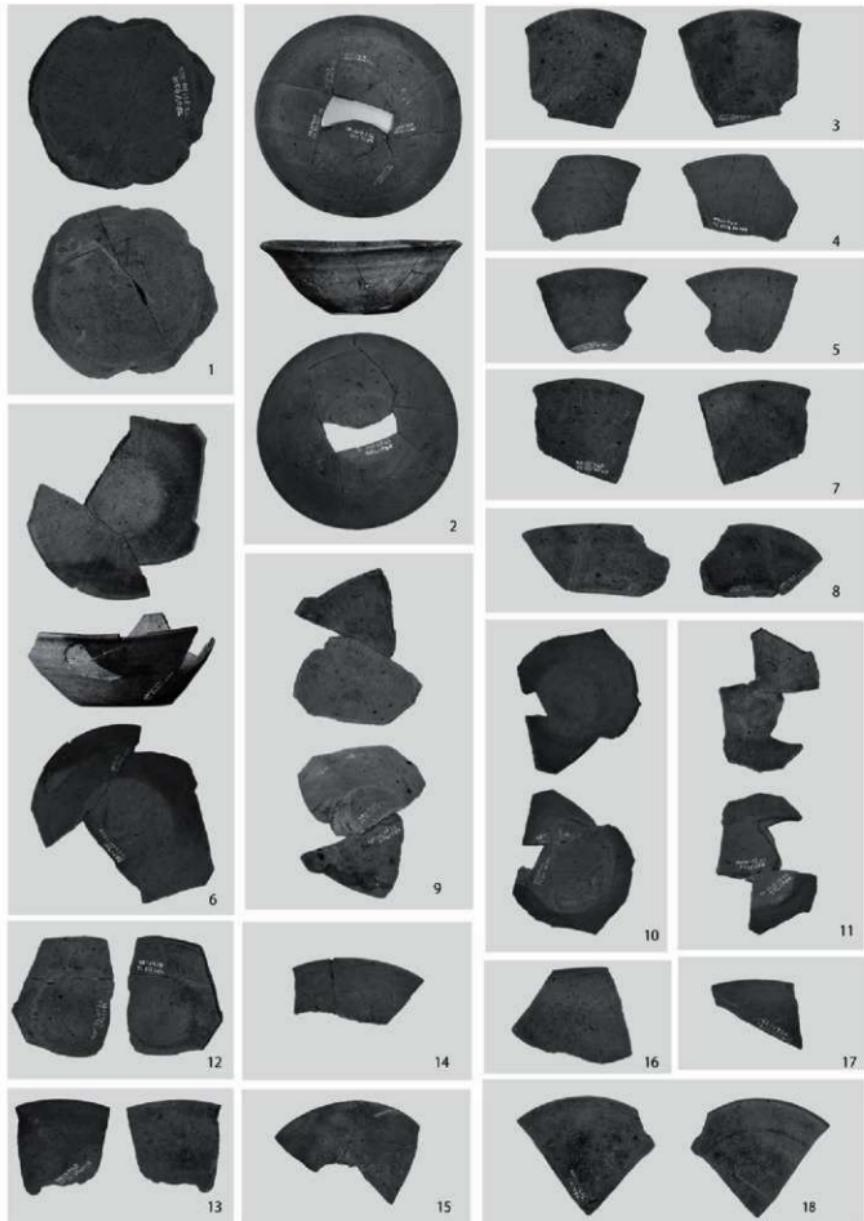


45 SD6 セクション（南西から） 左）東端部 右）中央部

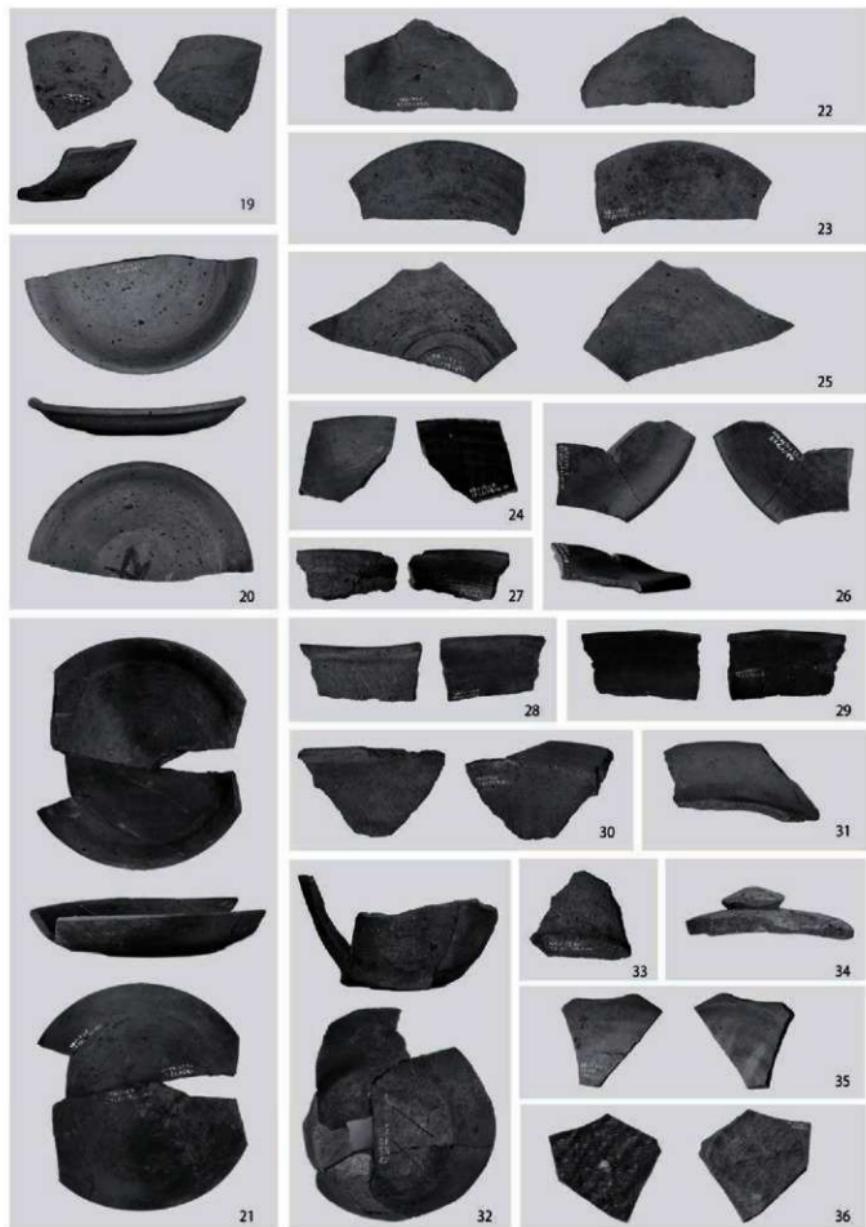


46 作業風景

図版 12



S I 1出土遺物 (1)

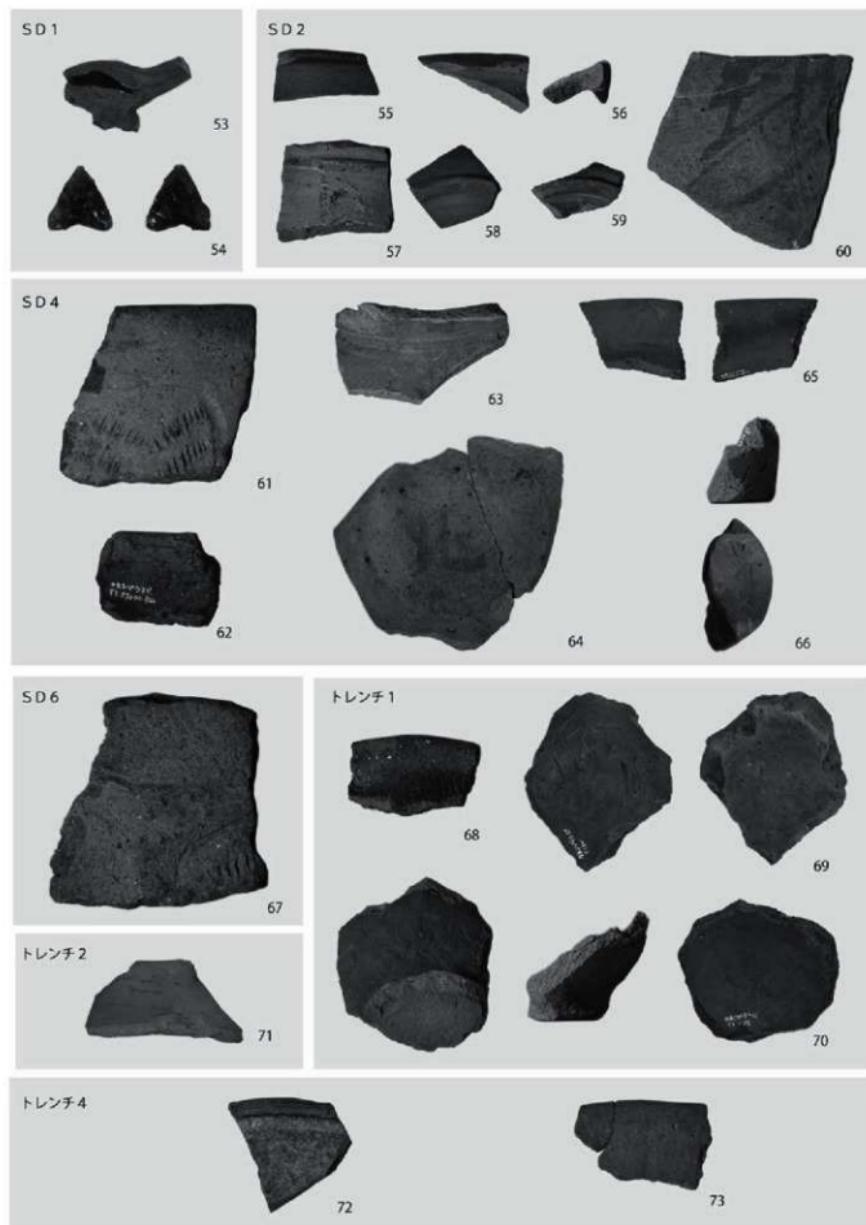


S I 1 出土遗物 (2)

図版 14



S I 2 出土遺物



SD 1・2・4・6, 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんふえふきし かねじぞういせき						
書名	山梨県笛吹市 金地蔵遺跡						
副書名	社会福祉法人博愛保育園による保育園建設事業に伴う発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第29集						
編著者名	泉 英樹						
編集機関	昭和測量株式会社						
所在地	〒 406-0031 山梨県笛吹市石和町市部 1030 TEL055-262-7266						
猪卉明日	平成 26 (2014) 年 3月 31 日						
資料の保管機関	出土遺物・記録類	山梨県笛吹市教育委員会 文化財課					
		〒 406-0031 山梨県笛吹市石和町市部 809-1 笛吹市役所南館 3F TEL 055(261)3342 (直通)					
ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号		(m ²)		
金地蔵遺跡 999 番地 1	山梨県 笛吹市 八代北	八代 - 65	35° 138°	2013.6.17 ~ 2013.7.3	150	保育園 建設事業	
			36° 38'				
			56° 53"				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
金地蔵遺跡	集落跡 包蔵地	縄文時代		土器, 石鏃	縄文時代中期		
		古墳時代		須恵器, 土師器			
		奈良・ 平安時代	竪穴建物跡, 土坑, ビット, 溝状遺構	須恵器, 土師器			
要約	本遺跡は、笛吹市八代町北に所在する。甲府盆地の南東部、御坂山地の北麓に位置し、御坂山地から注ぐ浅川などによって形成された扇状地上にあり、標高は 322 ~ 323m を測る。発掘調査では、縄文時代と古墳時代から平安時代の遺物が出土し、9世紀から10世紀にかけての竪穴建物 2軒と土坑・ビットが 25 基、溝状遺構 7 条が検出された。						

笛吹市文化財調査報告書 第29集

金地蔵遺跡（3次）

—社会福祉法人博愛保育園による保育園建設事業に伴う発掘調査報告書—

発行日 平成26年3月31日

編集 昭和測量株式会社
〒400-0032 山梨県甲府市中央3-11-27 ㈹055-235-4448

発行 社会福祉法人博愛保育園
笛吹市教育委員会

昭和測量株式会社

印刷・製本 株式会社 内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央2-10-18 ㈹055-233-0188

Fuefuki City Archaeological Report Vol.29

The Report of
Archaeological Research of KANEJIZO Site in Yatsushiro
(Third Survey)

Archaeological Survey prior to the Construction of
HAKUAI Nurser School

2014

HAKUAI Nurser School
Fuefuki City Board of Education
Showa survey Co,Ltd.